

種別	授業科目	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考		
		講義	演習	実習 実技	必修	選択 必修	選択	専任	併設 四大	常勤			兼任	
自己の確立群	自己の発見Ⅰ	○	○		4				○	○	○	229 (4)	1年次必修	
	自己の発見Ⅱ		○				1				○	48 (2)		
	キリスト教学Ⅰ-1	○			1				○		○	228 (4)	1年次必修	
	キリスト教学Ⅰ-2	○			1				○		○	248 (4)	1年次必修	
	キリスト教と世界	○					1		○			3 (1)		
	身体活動Ⅰ			○	0.5				○		○	217 (20)	1年次必修 教職必修	
	身体活動Ⅱ			○	0.5				○			305 (13)	2年次必修 教職必修	
	身体への気づき 1	○				1			○		○	135 (4)	1年次選択必修	
	身体への気づき 2	○				1					○	83 (2)	1年次選択必修	
	身体への気づき 3	○				1			○			10 (1)	1年次選択必修 教職必修	
	学ぶこと、働くこと	○			2				○		○	242 (1)	1年次必修	
	大学と自己形成	○			1				○			215 (1)	1年次必修	
	心理学の巨匠	○					2				○	6 (2)	共通科目	
	発達心理学	○					2						休講	
	現代の若者考	○					2	○				32 (1)		
	芸術との出会い-音楽の巨匠-	○					1						休講	
	文学の巨匠	○					2				○	16 (2)	共通科目	
	文芸との出会い-英文学の巨匠-	○					2				○	15 (1)		
	文芸との出会い-米文学の巨匠-	○					2	○				3 (1)		
	心理学基礎Ⅰ	○					2				○	41 (1)		
	心理学基礎Ⅱ	○					2				○	13 (1)		
	自然科学基礎Ⅰ	○					2		○			9 (1)		
	自然科学基礎Ⅱ	○					2		○			3 (1)		
	科学的・文化的視点から捉えたライフスタイル	○					2		○			12 (2)		
	語学基本群	Phonetics - 1		○		1.5					○	○	220 (8)	1年次必修
		Phonetics - 2		○		1.5					○	○	220 (8)	1年次必修
Grammar - 1			○		1			○	○	○	○	220 (8)	1年次必修	
Grammar - 2			○		1			○	○	○	○	220 (8)	1年次必修	
Phonetics - 1 (再履修)			○		1.5				○	○		58 (2)	1年次必修(再履修)	
Phonetics - 2 (再履修)			○		1.5				○	○		56 (2)	1年次必修(再履修)	
Grammar - 1 (再履修)			○		1			○	○	○	○	87 (4)	1年次必修(再履修)	
Grammar - 2 (再履修)			○		1			○	○	○	○	92 (4)	1年次必修(再履修)	
Computer-Assisted Speed Reading			○			2				○	○	102 (5)	6単位以上選択必修	
Computer-Assisted Composition			○			2				○		38 (2)	6単位以上選択必修	
Oral Interpretation (Advanced Level)			○			2				○		29 (2)	6単位以上選択必修	
Oral Interpretation (Intermediate Level)			○			2				○		27 (2)	6単位以上選択必修	
Academic Listening (Advanced Level)			○			2				○	○	15 (2)	6単位以上選択必修	
Academic Listening (Intermediate Level)			○			2				○	○	122 (5)	6単位以上選択必修	
Academic Vocabulary (Advanced Level)			○			2		○		○		24 (2)	6単位以上選択必修	
Academic Vocabulary (Intermediate Level)			○			2				○	○	165 (7)	6単位以上選択必修	
Public Speaking (Advanced Level)			○			2			○		○	27 (2)	6単位以上選択必修	
Public Speaking (Intermediate Level)			○			2				○	○	30 (2)	6単位以上選択必修	
Extensive Reading			○			2		○		○	○	132 (7)	6単位以上選択必修	
Intensive Reading			○			2		○		○	○	107 (5)	6単位以上選択必修	
Debate (Advanced Level)		○			2		○		○		19 (2)	6単位以上選択必修		
Debate (Intermediate Level)		○			2		○				17 (1)	6単位以上選択必修		

種別	授業科目	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考
		講義	演習	実習 実技	必修	選択 必修	選択	専任	併設 四大	常勤		
コア基本群	Core Studies I - 1		○		3			○	○	○	220 (8)	1年次必修
	Core Studies I - 2		○		3			○	○	○	220 (8)	1年次必修
	Core Studies II - 1		○		3			○	○	○	220 (8)	1年次必修
	Core Studies II - 2		○		3			○	○	○	219 (8)	1年次必修
	Core Studies III - 1		○		1.5			○		○	220 (8)	1年次必修 教職必修
	Core Studies III - 2		○		1.5			○		○	220 (8)	1年次必修 教職必修
	Core Studies I - 1 (再履修)		○		3					○	6 (1)	1年次必修(再履修)
	Core Studies I - 2 (再履修)		○		3					○	21 (1)	1年次必修(再履修)
	Core Studies II - 1 (再履修)		○		3					○	31 (2)	1年次必修(再履修)
	Core Studies II - 2 (再履修)		○		3					○	33 (2)	1年次必修(再履修)
	Core Studies III - 1 (再履修)		○		1.5					○	2 (1)	1年次必修(再履修)
Core Studies III - 2 (再履修)		○		1.5					○	11 (1)	1年次必修(再履修)	
コア展開群	Topic Studies I - 1		○		2			○	○	○	317 (15)	2年次必修
	Topic Studies I - 2		○		2			○	○	○	309 (15)	2年次必修
	Topic Studies II - 1		○		2			○	○	○	348 (15)	2年次必修
	Topic Studies II - 2		○		2			○	○	○	316 (15)	2年次必修
	Topic Studies III - 1		○		2			○	○	○	319 (14)	2年次必修
	Topic Studies III - 2		○		2			○	○	○	311 (14)	2年次必修
コア展開群	日本がたどった歩み	○			4						休講	6単位以上選択必修
	平和への課題	○			2					○	66 (1)	6単位以上選択必修
	紛争の構造	○			2					○	26 (1)	6単位以上選択必修
	第三世界の政治	○			2					○	100 (1)	6単位以上選択必修
	国際社会の変容	○			2					○	34 (1)	6単位以上選択必修
	変わりゆく世界経済	○			2					○	31 (1)	6単位以上選択必修
	国際政治とオリンピック	○			2					○	52 (1)	6単位以上選択必修
	Peace and the Role of the Arts	○			2				○		12 (1)	6単位以上選択必修
	生命科学と倫理	○			2					○	20 (2)	6単位以上選択必修
	生の理解と死の理解	○			2			○			13 (1)	6単位以上選択必修 共通科目
	宇宙観の歴史	○			2					○	31 (1)	6単位以上選択必修
	科学の最前線	○			2					○	9 (1)	6単位以上選択必修
	現代人と宗教	○			2					○	17 (1)	6単位以上選択必修
	医療と倫理	○			2					○	20 (1)	6単位以上選択必修
	人権の歴史	○			2					○	34 (1)	6単位以上選択必修
	偏見と相互理解	○			2					○	23 (1)	6単位以上選択必修
	人権問題の構造	○			2					○	44 (1)	6単位以上選択必修
	性差と文化	○			2			○			70 (1)	6単位以上選択必修
	憲法	○			2					○	31 (2)	6単位以上選択必修 教職必修
	シニアライフの未来	○			2			○			74 (2)	6単位以上選択必修
	マスメディアと現代	○			2					○	77 (1)	6単位以上選択必修
	法女性学	○			2						休講	6単位以上選択必修
	コア展開群	民族問題と現代社会	○			2				○		49 (1)
法学基礎 I		○			2					○	16 (1)	6単位以上選択必修
法学基礎 II		○			2					○	15 (1)	6単位以上選択必修
社会学基礎 I		○			2			○		○	28 (2)	6単位以上選択必修
社会学基礎 II		○			2			○		○	56 (2)	6単位以上選択必修
経済学基礎 I		○			2					○	17 (1)	6単位以上選択必修
経済学基礎 II		○			2					○	14 (1)	6単位以上選択必修
Multiculturalism and Globalization		○			2				○		28 (1)	6単位以上選択必修
21世紀家族		○			2			○			74 (2)	6単位以上選択必修
地球環境－問題と解決		○			2					○	90 (1)	6単位以上選択必修
現代人の状況－ストレス		○			2					○	98 (1)	6単位以上選択必修
食糧問題の構造		○			2					○	61 (1)	6単位以上選択必修
生殖革命		○			2					○	56 (1)	6単位以上選択必修
食文化と生命		○			2				○		93 (2)	6単位以上選択必修
ライフサイエンス		○			2				○		43 (2)	6単位以上選択必修
Women and Education		○			2					○	20 (1)	6単位以上選択必修

種別	授業科目	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考	
		講義	演習	実習 実技	必修	選択 必修	選択	専任	併設 四大	常勤			兼任
表現・コミュニケーション群	研究調査法		○		2				○		○	270 (9)	1年次必修 教職必修
	子どもとことば	○					2		○			13 (1)	
	言語学	○					2		○			33 (1)	
	社会言語学	○					2		○		○	26 (2)	
	心理言語学	○					2				○	19 (1)	
	英語学	○					2		○			21 (1)	教職必修
	英語史	○					2				○	10 (1)	
	言語と文化	○					2				○	27 (1)	
	日本語教授法-1		○				2					休講	
	日本語教授法-2		○				2					休講	
	異文化間コミュニケーション	○					2	○				55 (1)	
	異文化間リサーチ演習	○	○				4				○	16 (1)	
	地域研究(アメリカ)	○	○				4					休講	
	異文化間教育理解研究-ケーススタディ-:アフリカケニア		○				2					休講	
	地域研究(沖縄)	○	○				2				○	8 (1)	
	地域研究(バングラデシュ・チッタゴン)	○	○				2				○	7 (1)	
	コンピュータコミュニケーション		○				1				○	28 (1)	
	英文学史	○					2		○			10 (1)	
	米文学史	○					2		○			8 (1)	
	プレゼンテーション		○				2		○			11 (1)	
	文章表現法		○				4				○	34 (2)	共通科目
	文章表現法 II		○				2				○	32 (1)	
	口語表現法		○				2					休講	
	音楽と表現 - 1		○				1				○	22 (1)	
	音楽と表現 - 2		○				1				○	16 (1)	
	手話表現		○				2				○	38 (1)	
	点字表現		○				2				○	17 (1)	
	人間と建築	○					2				○	40 (1)	
	日本語学 I	○					4				○	21 (1)	
	日本語学 II	○					4				○	7 (1)	
Drama		○				1				○	7 (1)		
Creative Writing		○				1					休講		
News Writing		○				1				○	11 (1)		

2004(平成16)年度 教育課程

種別	授業科目	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考	
		講義	演習	実習 実技	必修	選択 必修	選択	専任	併設 四大	常勤			兼任
表現・コミュニケーション群	German I-1		○				1				○	49 (3)	共通科目
	German I-2		○				1				○	42 (3)	共通科目
	German II-1		○				1				○	35 (1)	
	German II-2		○				1				○	27 (1)	
	French I-1		○				1				○	38 (3)	共通科目
	French I-2		○				1				○	39 (3)	共通科目
	French II-1		○				1				○	35 (1)	
	French II-2		○				1				○	31 (1)	
	Korean I-1		○				1				○	44 (2)	共通科目
	Korean I-2		○				1				○	37 (2)	共通科目
	Korean II-1		○				1				○	24 (1)	
	Korean II-2		○				1				○	22 (1)	
	Chinese I-1		○				1				○	59 (4)	共通科目
	Chinese I-2		○				1				○	50 (4)	共通科目
	Chinese II-1		○				1				○	49 (2)	
	Chinese II-2		○				1				○	48 (2)	
	Spanish I-1		○				1				○	25 (2)	共通科目
	Spanish I-2		○				1				○	18 (2)	共通科目
	Spanish II-1		○				1				○	21 (1)	
	Spanish II-2		○				1				○	11 (1)	
Arabic I-1		○				1				○	16 (1)	共通科目	
Arabic I-2		○				1				○	17 (1)	共通科目	
Russian I-1		○				1				○	8 (1)	共通科目	
Russian I-2		○				1				○	7 (1)	共通科目	
Swahili I-1		○				1		○			7 (1)	共通科目	
Swahili I-2		○				1		○			3 (1)	共通科目	

2004(平成16)年度 教育課程

種別	授業科目	授業形態			単位数			教員配置			前年度の履修人員	備考	
		講義	演習	実習 実技	必修	選択 必修	選択	専任	併設 四大	常勤			兼任
専門 職業 群	グローバルビジネス	○					2	○				34 (1)	
	広報戦略	○					2	○				42 (1)	
	The Managerial Enterprise	○					2	○				31 (1)	
	Management Studies:Case Study	○					1				○	14 (1)	
	Management Seminar	○					1	○				23 (1)	
	経営入門	○					2				○	5 (1)	
	What is Management	○					2				○	29 (1)	
教職 専門 科目 群	英語科教育法		○				2	○				16 (1)	教職必修
	教育実習			○			4			○		11 (1)	教職必修
	教育制度と学校経営	○					2	○				12 (1)	教職必修
	教育方法の研究		○				1				○	14 (1)	教職必修
	国際社会と新しい価値観	○					2				○	13 (1)	教職必修
	生徒指導の実際	○					2				○	13 (1)	教職必修
	進路指導の実際	○					2				○	13 (1)	教職必修
	特別教育活動の指導	○					1				○	11 (1)	教職必修
	教育相談の実際	○					2		○			14 (1)	教職必修
	教育の21世紀的課題	○					2				○	12 (1)	教職必修
	教員の職務・責務	○					2	○				14 (1)	教職必修
	事前・事後指導	○					1				○	11 (1)	教職必修
	道德教育の意義と方法	○					1			○		10 (1)	教職必修
	教育学の世界	○					2				○	11 (1)	教職必修
	発達と心理	○					1		○			24 (1)	教職必修

コア・テーマと英語小論文の論理展開法

	期間	コア・テーマ	論理展開法
Unit 1	4/15-6/2	平和の追求	Illustration / Process (例証/過程)
Unit 2	6/3-7/22	科学と宗教	Classification (分類)
Unit 3	9/26-11/17	現代と人権	Comparison & Contrast (比較・対照) / Cause & Effect (原因・結果)
Unit 4	11/18-1-23	生命の危機	Persuasion (説得)

2004(平成16)年度 Topic Studies I / IIテーマ

コア	テーマ
平和の追求	Asian Women in the Pacific Century
	Introduction to Peace Studies
	Law, Justice and Morality
	Peace Issue Seen through Japanese Modern History
	Pursuit of Peace in the Present World
	Technology for War and Peace
科学と宗教	A Study of Mark Twain's Views on Thechnology and Religion
	Introduction to Mythology
	Life and Death in Modern Society
	The World of the Bible
現代と人権	American Literature: Alice Walker
	Children of Different Worlds
	Comparative Sociology - The Problems of Nihonjinron
	Current Issues in British Education
	Human Rights and Indigenous Peoples
	Human Rights from Different Perspective
	Individual, Cultural and Linguistic Human Rights
	Introduction to Shakespeare
	Relationships and Current Trends
	Sociolinguistics: Speech Patterns and Social Groups
	Women and Human Rights
	Women's Identity and Gender
生命の危機	Environmental Crisis: Understanding the Problems and Solutions
	Global Issues Today
	Health Studies
	Homes Lost, Homes Left: Population Movement in the Modern World
	Living in a Post-9/11 World
	Meaning of Life
	Poverty and Childhood
	Rethinking Globalization
	Role of the Family in the 21st Century
	Social Problems: Perspectives on Causes and Solutions
	Stress in Communication
	Welfare: Social Welfare and Others

2004(平成16)年度 Topic Studies IIIテーマ

Topic 1	9.11 Hearings 米議会の9.11同時テロに関する公聴会
Topic 2	Hostages in Iraq イラクにおける外国人質事件
Topic 3	Elderly Abuse 高齢者虐待の問題
Topic 4	North Korean Blast 北朝鮮の列車爆発事故
Topic 5	Iraq Prison Abuse Scandal アメリカ兵によるイラク人捕虜虐待事件
Topic 6	Israeli Destruction of Palestinian Homes イスラエルがパレスチナ人住居を破壊
Topic 7	2012 Olympics at London? 2012年のオリンピック開催はロンドン?
Topic 8	Rising Petroleum Prices 原油価格の高騰
Topic 9	Child Trafficking in Moldova モルドヴァの子供人身売買
Topic 10	Ice Cores and Climate Change 南極の氷から知る過去と未来の気象変化
Topic 11	Heat Island Phenomenon 東京のヒートアイランド現象
Topic 12	North Korean Human Rights 北朝鮮の人権問題
Topic 13	Afghan Female Candidate アフガニスタン大統領選に挑む女性候補
Topic 14	Recycling リサイクル
Topic 15	Third Presidential TV Debate 大統領候補者による第三回テレビ討論会
Topic 16	Smoking and Asthma 喫煙と喘息の因果関係
Topic 17	Arafat's Death アラファト議長死去
Topic 18	Ukraine Elections ウクライナの大統領選挙
Topic 19	Landmines in Angola アンゴラの地雷問題
Topic 20	Yasukuni Shrine Visits 小泉首相の靖国神社参拝と対中外交

2004(平成16)年度卒業生TOEIC-IP受検結果

1. 学年での変化

	1年修了時	2年修了時
平均	415.2	445.7
最高値	900	845
最低値	195	125

2. クラス別の変化

1年次クラス	1年修了時	2年修了時
a	635.4	648.1
b	533.5	561.5
c	421.7	466.3
d	376.8	410.3
e	363.3	380.3

3. 2003年度 TOEIC Data & Analysisデータとの比較

	Total	Listening	Reading
大阪女学院	446	256	189
短期大学2年	394	239	155
大学2年	421	242	179
大学院1年	463	252	211

卒業要件に占める授業形態(講義・演習・実技)のバランス

講義	単位数
キリスト教学	2
自己の発見 I	4
身体への気づき	1
学ぶこと、働くこと	2
大学と自己形成	1
コア展開群 選択科目	6
合計	16

25.8%

演習	単位数
Grammar	2
Phonetics	3
語学基本群 選択科目	6
Core Studies I	6
Core Studies II	6
Core Studies III	3
Topic Studies I	4
Topic Studies II	4
Topic Studies III	4
研究調査法	2
デジタルネットワーク基礎	1
合計	41

66.1%

実技	単位数
身体活動	1
合計	1

1.6%

任意選択	4
------	---

6.5%

2004(平成16)年度開講クラス受講者人数別分布

受講者数	クラス数	比率
1-10	37	8.2%
11-20	117	25.8%
21-30	225	49.7%
31-40	35	7.7%
41-50	13	2.9%
51-60	12	2.6%
61-70	8	1.8%
71-80	0	0.0%
81-90	2	0.4%
91-100	2	0.4%
101-110	0	0.0%
111-120	0	0.0%
121-130	0	0.0%
131-140	0	0.0%
141-150	0	0.0%
151-160	0	0.0%
161-170	0	0.0%
171-180	0	0.0%
181-190	0	0.0%
191-200	0	0.0%
201-210	0	0.0%
211-220	1	0.2%
221-230	0	0.0%
231-240	0	0.0%
241-250	1	0.2%
合計	453	100.0%

2004(平成16)年度実施アンケート一覧

アンケート項目	設問
学生募集アンケート	出身学校等 受験したOJCの入試 受験した大学と合格した大学 本学をどのようにして知ったか 志望校を絞りこんだ時期 OJCを志望校とした時期 OJCを志望したきっかけ OJCを志望した理由 OJC刊行誌をどの程度読んだか 新聞広告を見たか・感想 交通広告を見たか・感想 広報活動への感想・意見
新入生カレッジ調査	高校生活は充実していたか どのくらい重視してきたか (語学・他の科目・クラブ・アルバイト・家族との生活) 授業のない日の過ごし方 OJCに進学した理由 卒業後の進路を考えているか (就職・留学・OJC編入・他編入・専門学校・家事・他) あなたの職業人としての将来像 希望する就職先のイメージ 生き方のイメージ あなたにとって宗教は
新入生オリエンテーションアンケート	オリエンテーションを通じて大学生活を送るための情報が得られたか OJCでの有意義な学習に必要なものはなにか OJCでの学生生活で期待する自分の成長について オリエンテーションで良かったと感じたこと オリエンテーションで不必要と感じたこと コメント *自由記入
キャンパスライフ(1年修了時)アンケート	IUのクラス 一年間でどの程度力を伸ばせたか 満足度① *授業内容についての意見・所感(自由記入) 満足度② キリスト教プログラムは成長に影響を与えたか 授業以外の学生生活で、良かったと思う点 授業以外の学生生活で、改善すべきと思う点 学生生活をより豊かにするための提案
卒業生(2年修了時)アンケート	授業内容について どのくらい自分の力を伸ばすことができましたか 授業内容についての意見・所感 *自由記入 授業との関連で教員についての印象 授業以外での教員についての印象 満足度① 学習Norm キリスト教関係プログラムが成長に影響を与えたか OJCの教育方法に一定の思想や理念があるか 理念をどのようにして感じたか(説明・自然に) 理念をどういう場で感じたか 授業で感じた場合は、その科目 理念をどの時期に感じたか 理念を誰から感じたか(専任教員・兼任教員・事務局) 理念を感じる印刷物があるか 理念を理解できたか 理念に共感できたか 理念が成長に影響を与えたか 理念に近いキーワード 理念から遠いキーワード 満足度② 学生会・クラブ・リートレに参加したか それが成長に影響を与えたか 授業以外の学生生活について、良かった点 授業以外の学生生活について、改良すべき点 授業以外の学生生活について、学校が力を入れてほしい点 授業以外の学生生活について、学生が心ずればよかった点 授業以外の学生生活について、より豊かにするための提案 OJCに入学したことは

2004(平成16)年度実施アンケート一覧

アンケート項目	設問
人権意識調査(入学時)	小学校で受けた人権教育 中学校で受けた人権教育 高等学校で受けた人権教育 地域で受けた人権教育 差別的な話題への態度 人権問題に関わる記事への関心 関心がない理由
人権意識調査(1年修了時)	小学校で受けた人権教育 中学校で受けた人権教育 高等学校で受けた人権教育 地域で受けた人権教育 OJCで受けた人権問題に関する講義・講座 人権問題についての考え 差別的な話題への態度 人権問題に関わる記事への関心 関心がない理由 OJCの人権教育講座から学ぶことがあったか OJCの教育全体から人権について学ぶことがあったか 上記2項について心に残っていること
人権意識調査(2年修了時)	小学校で受けた人権教育 中学校で受けた人権教育 高等学校で受けた人権教育 地域で受けた人権教育 OJCで受けた人権問題に関する講義・講座 人権問題についての考え 差別的な話題への態度 人権問題に関わる記事への関心 関心がない理由 OJCの人権教育講座から学ぶことがあったか OJCの教育全体から人権について学ぶことがあったか 上記2項について心に残っていること
Tutoring	チュータリングセンターを知っていますか チュータリングを利用したことがあるか チュータリングを利用しない理由 何がどう変わればチュータリングを利用するか 何回利用したか 何曜日に利用したか チュータリングへの満足度 時間帯への満足度 利用しやすいか 役に立つか センターは騒々しいか 授業担当者はチュータリング利用を促したか アドバイスは有効か センターのPCはwritingに役立つか チューターの言うことは理解できたか チュータリングの利用は英語力向上に役立つか 今後のチュータリング利用予定 チュータリングを利用し宿題の成績が上がった チューターの言うことが理解できない センターのPCでwritingをすることは難しい チュータリングを利用するのに長時間待つ必要があった チュータリングを利用しwriting能力が上がった チューターのアドバイスに失望した チューターにどのようなアドバイスを受けたか どの授業のためにチュータリングを利用したか 直近の利用目的は(どの授業・どの宿題)、役立つか 最も気に入っている点は 最も気に入らない点は チュータリングをよりよくするための提案は
自己の発見	「自己の発見 II」を受講したか 「自己の発見」というテーマに関する印象 自己の発見のために役立ったか (教育学、心理学、社会学、哲学) その理由 「自己の発見」を良くするために何を提案するか 「自己の発見」についての意見・感想

2004(平成16)年度実施アンケート一覧

アンケート項目	設問
Phonetics	テキストや配布資料は満足いくものだった 担当講師は授業時間を効果的に使った 担当講師は学生が理解できるように説明した
Grammar	担当講師は学生に質問や意見の発表を促した わたしはこの授業に意欲的に取組んだ 私はこの授業から得たものが多い
語学基本群(選択)	この領域の知識や関心が広がった 英語運用能力の向上に役立った この授業で気づいた事や要望などを書いてください
Integrated Unit 1	トピックThe Pursuit of peaceに興味を持てたか トピックThe Pursuit of peaceで知識や関心が広がったか Paragraphの展開方法についてIllustrationを理解できたか Paragraphの展開方法についてProcessを理解できたか 英語運用力の向上に役立ったか テキストや配布資料は満足いくものだった 担当講師は授業時間を効果的に使った 担当講師は学生が理解できるように説明した 担当講師は学生に質問や意見の発表を促した わたしはこの授業に意欲的に取組んだ 私はこの授業から得たものが多い 授業で気づいたことや要望 *自由記入
Integrated Unit 2	トピックScience and Religionに興味を持てたか トピックScience and Religionで知識や関心が広がったか Paragraphの展開方法についてClassificationを理解できたか 英語運用力の向上に役立ったか テキストや配布資料は満足いくものだった 担当講師は授業時間を効果的に使った 担当講師は学生が理解できるように説明した 担当講師は学生に質問や意見の発表を促した わたしはこの授業に意欲的に取組んだ 私はこの授業から得たものが多い 授業で気づいたことや要望 *自由記入
Integrated Unit 3	トピックThe Present Age & Human Rightsに興味を持てたか トピックThe Present Age & Human Rightsで知識や関心が広がったか Paragraphの展開方法についてComparison/Contrastを理解できたか Paragraphの展開方法についてCause/Effectを理解できたか 英語運用力の向上に役立ったか テキストや配布資料は満足いくものだった 担当講師は授業時間を効果的に使った 担当講師は学生が理解できるように説明した 担当講師は学生に質問や意見の発表を促した わたしはこの授業に意欲的に取組んだ 私はこの授業から得たものが多い 授業で気づいたことや要望 *自由記入
Integrated Unit 4	トピックThe Crises of Lifeに興味を持てたか トピックThe Crises of Lifeで知識や関心が広がったか Essayの展開方法についてPersuasionを理解できたか 英語運用力の向上に役立ったか テキストや配布資料は満足いくものだった 担当講師は授業時間を効果的に使った 担当講師は学生が理解できるように説明した 担当講師は学生に質問や意見の発表を促した わたしはこの授業に意欲的に取組んだ 私はこの授業から得たものが多い 授業で気づいたことや要望 *自由記入
Integrated Unit 全体	春・秋学期を通しての「統合課程」によって あなたの「読む力」は向上したか あなたの「書く力」は向上したか あなたの「聴く力」は向上したか 「統合課程」のトピックは知識や関心は広がったか パラグラフまたはエッセイの展開方法の理解 「統合課程」についての満足度 「統合課程」についての評価 「統合課程」についての意見

2004(平成16)年度実施アンケート一覧

アンケート項目	設問
Topic Studies I	<p>Topic Studies Iクラスの評価について 同 コメント *自由記入 トピックについてどれだけ学んだか トピックについてクラスメイトや先生と話したり、教材やプロジェクトに取り組むことが出来たか クラスでクラスメイトと話す時間について クラスで先生と話す時間について クラスでトピックに関連する教材に取り組んだ時間について クラスでトピックに関連するプロジェクトに取り組んだ時間について プレゼンテーション(グループ及び個人)にかかった時間について 宿題の量について リサーチペーパーのためのMLAの指導について クラスで最も楽しんだ事、もっと時間があればよかった事 *自由記入 クラスで楽しくなかった事、あまり時間をかけたくなかった事 *自由記入 先生はリサーチペーパーの指導をしたか 先生はペーパーにコメントを書いたか シラバスは最初の授業で配布されたか Topic Iの授業をよくする提案 *自由記入</p>
Topic Studies I-P	<p>Topic Studies Iクラスの評価について 同 コメント *自由記入 トピックについてどれだけ学んだか トピックについてクラスメイトや先生と話したり、教材やプロジェクトに取り組むことが出来たか クラスでクラスメイトと話す時間について クラスで先生と話す時間について クラスでトピックに関連する教材に取り組んだ時間について クラスでトピックに関連するプロジェクトに取り組んだ時間について プレゼンテーション(グループ及び個人)にかかった時間について 宿題の量について リサーチペーパーのためのMLAの指導について クラスで最も楽しんだ事、もっと時間があればよかった事 *自由記入 クラスで楽しくなかった事、あまり時間をかけたくなかった事 *自由記入 先生はプレゼンテーションの指導をしたか 先生はプレゼンテーションにコメントを書いたか シラバスは最初の授業で配布されたか Topic Iの授業をよくする提案 *自由記入</p>
Topic Studies II	<p>Topic Studies IIクラスの評価について 同 コメント *自由記入 リーディングの宿題は授業の理解にどのくらい役立ったか 授業中行われたディスカッションに費やした時間について TopicIIのクラスであなたのスピーキング能力が伸びたか 宿題の量について TopicIIのクラスであなたのリーディング能力が伸びたか クラスで最も楽しんだ事、もっと時間があればよかった事 *自由記入 クラスで楽しくなかった事、あまり時間をかけたくなかった事 *自由記入 先生はリサーチペーパーの指導をしたか 先生はドラフトペーパーにコメントを書いたか 先生はリーディング教材の理解を促すリーディングガイドやワークシートを提供したか リサーチペーパーのためのMLAの指導について シラバスは最初の授業で配布されたか 英語で授業は進められたか Topic IIの授業をよくする提案 *自由記入</p>
Topic Studies II-R	<p>Topic Studies IIクラスの評価について 同 コメント *自由記入 リーディングの宿題は授業の理解にどのくらい役立ったか 授業中行われたディスカッションに費やした時間について TopicIIのクラスであなたのスピーキング能力が伸びたか 宿題の量について TopicIIのクラスであなたのリーディング能力が伸びたか クラスで最も楽しんだ事、もっと時間があればよかった事 *自由記入 クラスで楽しくなかった事、あまり時間をかけたくなかった事 *自由記入 先生はサマリーの指導をしたか 先生はサマリーにコメントを書いたか 先生はリーディング教材の理解を促すリーディングガイドやワークシートを提供したか リサーチペーパーのためのMLAの指導について シラバスは最初の授業で配布されたか 英語で授業は進められたか Topic IIの授業をよくする提案 *自由記入</p>

2000(平成12)年度学習時間アンケート(1年生)

レベル	人数	学内 自習	自室 自習	学習 時間 合計	睡眠	アル バイト	クラブ サークル	生活 維持	娯楽	通学 時間
a	14	10.8	18.6	29.3	30.8	10.5	1.4	10.8	15.5	11.9
b	23	7.0	13.7	20.6	33.3	13.1	4.6	4.6	10.3	11.2
c	27	5.9	16.6	22.5	31.9	11.5	1.6	10.8	12.1	11.7
d	28	5.8	14.8	20.7	30.3	14.4	2.7	11.2	13.6	11.8
e	53	7.5	18.5	25.9	31.8	18.6	1.8	10.8	11.7	10.1
平均		7.1	16.7	23.8	31.6	14.4	2.7	10.2	12.2	11.1

2003(平成15)年度授業への出席状況

	英語科全体		303生全体		303生必修		303生英語必修		302生全体		302生英語必修	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
授業実施 コマ数	314,678	-	192,759	-	161,615	-	115,565	-	110,615	-	38,802	-
出席数 (遅刻・早退なし)	273,380	86.88%	172,158	89.31%	146,099	90.40%	105,182	91.02%	93,393	84.43%	33,645	86.71%
出席数 (含 遅刻・早退)	279,668	88.87%	175,439	91.01%	148,811	92.08%	107,529	93.05%	95,810	86.62%	34,908	89.96%
欠席数	35,010	11.13%	17,320	8.99%	12,804	7.92%	8,036	6.95%	14,805	13.38%	3,894	10.04%

2002(平成 14)年度～2004(平成 16)年度 専任教員の授業担当コマ数

(2005 (平成 17) 年 4 月現在の在職者に限る)

英語科 氏 名	職名	2002 (平成 14)	2003 (平成 15)	2004 (平成 16)	備考
川岸 清	学長代行・ 教授	11.5	11.5	14	
中井 弘一	教授	—	—	20	2004 (平成 16) 年 4 月就任
Aljets, Merrit G.	教授	18	20	16	
Swenson,, Tamara A.	教授	13	13	6※	※2004(平成 16) 年 8 月から海外 研究派遣
McCarty, Steve A.	教授	—	—	18	
Verity,, Deryn	教授	—	—	16	2004 (平成 16) 年 4 月就任
稲田 依久	教授	17	20	16	
Cline, William D.	助教授	19	17	18	
Fujimoto, Donna T.	助教授	—	—	18	2004 (平成 16) 年 4 月就任
肴倉 宏	専任講師	21	21	20	
Hansen, Jerrord	専任講師	—	—	18	2004 (平成 16) 年 4 月就任
関根 聡	専任講師	—	—	20	2004 (平成 16) 年 4 月就任
平均担当コマ数		16.6	17.1	16.7	
担当コマ基準数		21	21	20	

注 担当コマ基準は、年間に担当しなければならない基準コマ数である。実際の担当必要コマ数は、担当する役職及び校務等により、校務内容毎に定めた軽減コマ数を担当コマ基準数から減じて設定している。

なお、2004 (平成 16) 年度から、3 学期制を 2 学期制にまた、授業時間を 70 分から 50 分に変更している。

2002(平成 14)年度～2004(平成 16)年度 専任教員の所属委員会

(2005 (平成 17) 年 4 月現在の在職者に限る)

英語科 氏名	職名	2002 (平成 14)	2003 (平成 15)	2004 (平成 16)	備考
川岸 清	学長代行・ 教授	運営委員会 学習サポート委員会 学生相談委員会 スカラシップ委員会 課外活動委員会 編入学指導委員会 留学指導委員会 提携推進委員会 キリスト教教育委員会 審査委員会 リクルート委員会 自己検討委員会 中期計画委員会 継続教育委員会 アドミッションセンター委員会 入試問題検討委員会	運営委員会 学習サポート委員会 学生相談委員会 編入学指導委員会 教育課程委員会 キリスト教教育委員会(委 員長) 審査委員会 リクルート委員会 自己検討委員会 中期計画委員会	大学経営委員会 教育企画・推進委員会 (委員長) 英語教育企画・推進委 員会・募集広報会議・ 判定会議	
中井 弘一	教授			研究活動企画・推進委 員会 募集広報会議 判定 会議 紀要編集小委 員会	2004 (平 成 16) 年 4 月就任
Aljets, Merr it G.	教授	学習サポート委員会 キリスト教教育委員会 図書委員会	学習サポート委員会 キリスト教教育委員会 図書委員会 メディア教育開発委員会	Integrated Units(統 合課程)教材小委員会 キリスト教教育小委員会	
Swenson,, Tamara A.	教授	留学指導委員会 提携推進委員会 教育課程委員会 リエゾン委員会 人権教育委員会 地域研究委員会 メディア教育開発委員会 (委員長) 入試問題検討委員会	留学指導委員会 教育課程委員会 リエゾン委員会 人権教育委員会 メディア教育開発委員会 (委員長)	Integrated Units(統 合課程)教材小委員会	2004(平 成 16) 年 8 月 から海 外研究 派遣
McCarty, Steve A.	教授			LMS 企画・推進委員会 Integrated Units(統 合課程)教材小委員会	

英語科 氏名	職名	2002 (平成 14)	2003 (平成 15)	2004 (平成 16)	備考
Verity,, Deryn	教授			Integrated Units(統 合課程)教材小委員会	2004 (平 成 16) 年 4 月就任
稲田 依久	助教授	学生サポート委員会 (委 員長) 編入学指導委員会 教育課程委員会 リエゾン委員会 キリスト教教育委員会 入試問題検討委員会	学生サポート委員会 (委 員長) 編入学指導委員会 教育課程委員会 リエゾン委員会 キリスト教教育委員会	英語教育企画・推進委 員会 学生サポート企画・推進 委員会 募集広報会議 リエゾン小委員会 Integrated Units(統 合課程)教材小委員会 キリスト教教育小委員会 学生相談小委員会	
Cline , William D.	助教授	学習サポート委員会 課外活動委員会 就職指導委員会 教育課程委員会 リエゾン委員会 地域研究委員会	学習サポート委員会 教育課程委員会 リエゾン委員会 自己検討委員会	英語教育企画・推進委 員会 リエゾン小委員会 Integrated Units(統 合課程)教材小委員会	
Fujimoto , Donna T.	助教授			Integrated Units(統 合課程)教材小委員会	2004 (平 成 16) 年 4 月就任
肴倉 宏	専任講師	スカラシップ委員会 就職指導委員会 教育課程委員会 図書委員会 F.D.,S.D.企画委員会	スカラシップ委員会 (委 員長) 教育課程委員会 キリスト教教育委員会 図書委員会 F.D.,S.D.企画委員会	学生サポート企画・推進 委員会 Integrated Units(統 合課程)教材小委員会 キリスト教教育小委員会	
Hansen , Jerrord	専任講師			Integrated Units(統 合課程)教材小委員会	2004 (平 成 16) 年 4 月就任
関根 聰	専任講師			LMS 企画・推進委員 会 キリスト教教育小委員会 初年次・導入教育	2004 (平 成 16) 年 4 月就任

注 2004 (平成 16) 年度から、学則及び教授会規程の変更に伴い、委員会等の学内運営組織も再構成している。

あきらめの風潮をまのあたりにして

近年、毎日のように新聞やニュースでは、戦争や飢餓など日本人にとっては想像しがたい事件が報道される。しかし、そんなニュースが増加する一方日本人の意識の中に「あきらめ」があるように考えられる。何かをする前に、「無理だ」と決め付けてしまう風潮が存在する。なぜあきらめてしまうのだろうか。明確な答えはわからないが「自分の可能性が見出せない」ことがあきらめを引き起こしているのかもしれない。あきらめの現状のなかで、私が「大学で学ぶこと働くこと」にどのような意味があるのだろうか。

私は、女学院に「平和について知り、私にできることを見つけたい」と言う意志を持ち入学した。周りから私なんかにはできるはずがないという目で見られていた。しかし、女学院に入学してから一年が経とうとしている今、そんなことはないと少しずつ思えるようになった。またそれと同時に「The Truth Shall Make You Free.」物事を見抜く力をつけるには、「学び」が必要であると考えられる様になった。その様に考えられる様になったのは、「他者と自己」について、今まで持っていた考えと全くと言って良い程考えが変わったからである。大学に入るまでは、コミュニケーションがこれ程大切だとは思っていなかった。しかし、女学院でのグループワークや、行事を通したただの会話ではなく対話の必要性に気づいた。女学院の授業で取り上げられる問題は、「グローバルな課題」が多くそう簡単にまとまるものではなく、お互いの持っているものを最大限に発揮し合わなければならない。高度な対話をする為には、他者を知る前に自己について知っておく必要がある。自分についてほとんど何も知らなかった私にとって自己の発見の授業や多くのプログラムが助けとなった。自己の発見の授業を受講するまでは「自分のことは自分が一番よく知っている」と錯覚していたことに気づいた。授業の中で、初対面の人から「私の第一印象」を言われる時間があつた。自分の想像している自分と全く違った。周りの友人にも、内面と外見が違う子が大半いて、第一印象でその人を決め付けてしまうことの危険性を感じた。中でも私にとっての一番の気づきは、「一人一人違う文化を持つ」ということである。育った環境が違うから、他者と関わる上で他者自身の持つ歴史に目を向ける必要があることや、他者のアイディアの裏には、他者の経験した様々な事柄が関係している事に気づいた。そして、私自身そうなのだとは他者の気づきから自分を知ることができた。他に、私が興味を惹かれたのは「他者を説得させる」というプログラムである。自分の考えを整理し理解させる。最後まで自分の意見を通さなければならない。自分の意見を強く持っていたとしても、なかなか上手に相手を説得できなかった。「お互い理解しあうことが大切」よく聞かれる言葉ではあるがそれがどんなに困難であり、自己と他者の関わりを知って初めて成り立つことであるとわかった。さらに私はクラブ活動でも、他者とのかかわりの大切さを知った。私は、歌うことが好きで、ゴスペル部に入部した。クラブでは、50人で一つの歌をつくりあげる為に多くの議論が交わされる。皆が同じ目的の為に妥協しないで、「私はこう思う」とそれぞ

れの意見を出し合う。心を開いて議論できるのは、皆が仲間だとお互い実感できているからだと感じる。私にとってのクラブは自分を振り返り、他者と関わるができる場である。大勢の人に対し自分の意見を言うことに恐れや不安を感じていた私は、クラブ活動の参加によって自分が少し成長したことに気づいた。このちょっとした成長によって、私の持ったあらゆる疑問に正直に考え議論し行動するようになった。まず、最初に私の心を揺さぶったのは「人権教育講座」である。私は、バングラデシュについての講座を受講した。バングラデシュの方が写真やスライドを使って現状を詳しく説明して下さった。そのお話の中で「バングラデシュの母親は先に家族にご飯を食べさせ、残った分を後で食べる」というお話があった。まるでそれが女性の優しさからくるように説明された。入学して間もない私は何も気にせず聞いていた。しかし、毎日授業を受けているうちに「社会がそうさせたのではないか」と考える様になっていた。私は今女性として日本で生きている。写真の中の女性も今、女性としてバングラデシュで生きている。それぞれの国が持つ問題は全く違うが、「女性として生きる」という共通点が私に「共に生きよう」という気持ちを抱かせた。私は今まで「何かしてあげたい」と知らず知らずの間に、優越感に浸っていたことに気づいた。丁度そのころ教会でウィルミナエンジェルズと共に、チャリティーコンサートを行うことになった。私たちは歌うことを楽しみ、私たちを見に来てくださるお客様を満足させ、それと同時に私はもっと多くの人にバングラデシュについて知ってもらいたいと考えていた。「何かしたい」という思いが心の底からわき上がってきて、何もできない自分が腹立たしく感じていたからだ。「私にできること」はほんの小さなことだったけれど、同じ目的を持った仲間と、そしてお客様と楽しいひと時を過ごせたことが心の底から嬉しかった。こんな感覚は初めてだった。夏休みの間に「何かしたい」という思いを胸に行動してみようと思いピースアクションを続けている先輩に連絡を取ってみることにした。その頃先輩が活動しているグループが長野で大規模な講演会をひらくため海外からのゲストの随行スタッフの募集があり私はそれに挑戦してみることにした。私が女学院で持った疑問について、多くの意見が知りたかったからである。私はその疑問を平和活動されているアメリカ人の方にぶつけた。「情報がありすぎて何が本当なのか見分けることができず、何を信じたら良いのかわからない」その疑問を彼女の一言がはらしてくれた。「あなたは、イメージすること、考えること、行動することができるじゃない」私はこの言葉の中に、ニュースが嘘か本当かそんな次元ではない意味が含まれているように感じた。ふと夏休みに、今までの女学院生活を振り返ってみると「私はこんなに行動できる人間だったのだろうか」今までとは違う自分に気づき始めていた。しかし、こんなに大きな自分の変化に気づいた反面、すべてをそのまま受け入れる自分が恐ろしくなった。わけのわからない不安に悩まされた。自分ひとりで悩んでいることに耐えられなくなり、夜中に友人に電話をかけ涙を流したのを覚えている。友人からの答えは「自分が何かしないといけないと縛り付けているからじゃない」というのであった。私はその時、使命感だけの行動では心が悲鳴を上げるのだと知った。大きな壁にぶちあたった様な気がした。軽い気持ちで行動した結果がこ

れなのだと反省した。ある問題に関わる前に、どんな波にも飲み込まれない、強い信念を持っていないと私が私でなくなる危険性がある。私は、大きな失敗をばねに再び行動を開始した。ある女性の元気な姿が見たくて講演会に参加した。女学院にも以前来られたサハル＝サバさんである。彼女に会うのはこれで三度目だった。彼女の目の奥にはいつも暗い闇が潜んでいる様に見えた。しかし、必死にアフガニスタンの現状を説明し、私たちにメッセージを届けてくれる。その日、彼女の口から衝撃的な言葉が発せられた。「海外からの助けが、現状を変えるなどと思っていません」あきらめた表情がはっきりとわかった。望みすら持てない環境にいる彼女に、何が望みや夢を抱かせるのだろうか。考えたあげく、きっとそれは「私が彼女を必要とすることである」と考えるに至った。私が持つ可能性も彼女が持つ可能性も無限なのである。それは誰にも止められないし、止める権利は誰にもない。女学院に入学して「私でないのだめだから、私が必要だから私は生まれた」と言う考え方知って、私の持つ可能性は、生まれたときから備わっているものであると考えた。その可能性の存在に気づくことが、私自身のすべてを変えると気づいた。

私がこの大学で学んだ「他者とかかわり」から自分が見えたことによって、私が今まで感じたことのない感覚を感じるようになった。それは、私を他者に伝えたいという行動を起こし心に募らせていた疑問を他者へ問いかけるまでになった。これからの国際社会では、その問題の多さに一人一人が地球市民として考えなければならなくなってくると予想される。その社会での私の役割はわからないが、女学院で発見した自分は私の可能性を追求し、あきらめの風潮を超え、そこに自分の可能性を見出すであろう。「何かしたい」という意志から選択した女学院で、私の目的通り、周りの風潮を超えた、私がここで見つけたかったものが、多くの行事やプログラムによって導き出された。「真実はあなたを自由にする。」この言葉のほんの少しの意味が、私の女学院での体験から理解できた。将来私はどのように他者や社会とかかわっているかわからないが、真実を導き出す為にあきらめの風潮を越えて、その先にあるものを見つけ真実を発見する過程が私の生きる道を回りの雑多に振り回されない真っ直ぐなものにするであろう。

女の仕事

日本国憲法で男女平等が言われているのに、なぜ今でも女性の問題が取り上げられるのだろうか。それは、民主主義と言われる現在でも、まだ社会の仕組みや運営が、健全な成人男性を中心に働いているからだと言えるだろう。法律や制度、物の見方や考え方、動作など日常的な生活に至るまで、すべてが意識的であれ無意識的であれ、男性だけの価値観で作られ、運営されてきたからである。しかも、戦後の高度経済成長の中で核家族化が進み、夫は仕事、女は家庭を守るという性別役割分業が社会的に固定され、その結果、男性は生活的自立能力を、女性は社会的・経済的自立能力を伸ばすことを阻まれてきた。女性はこうした環境の中で、1人でさまざまな矛盾や葛藤を抱え込み、悩む事になるだろう。働く女性が多くなっている今日では、「男は仕事・女は仕事も家事も」という新しい性別役割分業が生じている。この下では、女性だけが子育ての困難さを1人で背負い込んでしまうだけではなく、仕事と家事・育児との両立で悩む事になる。現代の女性はライフステージの重要な節目であり、様々な矛盾や葛藤に折り合いをつけながら生きているのが現状ではないだろうか。その現状から目を背けずに、それをふまえた上で、私はこの現代社会で、自分にとって「大学で学ぶこと」と「学んだ後に社会に出て働くこと」について述べようと考えている。

戦前戦後の、男性ばかりが優位に立ち、十分な教育が男性にしか与えられなかった時代の、女性への世間の言葉は、「女は大学になんていかなくていい」「女は家事だけしていればいい」「女は家で子どもを産んで、男の言うことを聞いていればいい」などというものだった。ところがここ数十年は、女性も大学へ行き、生き生きと働き、選挙にも参加する。政治家になる女性だって、少なくはない。今回の大阪府知事選挙戦では、太田房江さんが再選を果たした。女性の議員数は、全体で見るとまだまだ少ないが、これからもっと増えたっておかしくはないだろう。

それにはまず女性が十分な教育を受けられる環境が必要である。「大学で学ぶ」ということは、人の人生に大きく影響するだろう。高校までとは違って、科目を自分で選択・登録し、講義を受ける。自分の責任が直接的に自分に影響するのである。また、「大学を選ぶ」ということは、自分の将来を選ぶのと同じことであるとも言えよう。

私の場合は、親類を見ても女系家族だったせいか、「男の方が上」だとか、「女は大学に行かなくていい」といったような考えを耳にするようになったのは、この大学に入ってからであった。高校は女子校だったが、特に女性問題について議論をしたりすることはなかった。女学院に入ってから友人や他者の話や、様々な女性問題の講義を受けても、いまいちピンとこないというか、自分の中での理解が薄く、戸惑った。しかし人権週間などで、男女にまつわる差別・区別の話を聞いたりしてから、自分の身の回りに目を向けてみて、意外に本当に身近な問題だということがわかった。例えば、子どもの頃に、母が家事全般を

やっていて、それを父や祖母が当たり前だと言い、更には「嫁がパートになんて出ているから家事や子育てが疎かになるんだ」と文句を言っていた。それを子ども心にも『そんなのか』と何の疑問も持たずに見て、「身近には何の差別もない」と自信満々に主張してきた自分自身にまず疑問の目を向け、問題意識を持つようになった。そして、だからこそ、私はこの「大阪女学院短期大学」という場所で学ぶのだと考えた。『働く女性』が特に多いと思われるこの大学で、一生を通しての『女の仕事』のついて学び・考えることは、私にとって大きな意味をもたらすであろう。それが「大阪女学院」以外の別の大学では、私にとっての「大学で学ぶ」ことの意味は大きく変わってしまうのだ。今、例えば日本人全員に「女の仕事は？」と問い掛けたとすると、その結果はきっと80%くらいが何も躊躇わずに「家事」と答えるだろう。それ以外の残りの20%はほとんどが仕事に生きる女性からの答えであり、日本人のおよそ半分を占めていると思われる女性の半分からも、きっと過半数の答える「家事」の回答が返ってくるに違いない。…と、私は予想を立てていた。IU基礎のクラスのグループディスカッションでも、やはり『女の仕事=家事』のイメージを大半の子達が持っていた。しかし、一部のクラスメイトの意見では「私は家事が得意だからやりたいし、別にずっと仕事をしたいっていう程働きたくもない」というものもあった。なるほど、それも有りだと私は思った。本人が希望していないのに、一生仕事をしると、家事を止めさせる必要もないと。私は、そこでやっと初めて当たり前の事実気付かされた。『女性が必ずしも家事や育児から開放され、仕事に生きることを望んでいるわけではない』ということに。『十人十色』という言葉があるように、人にはその人のそれぞれの生き方の希望がある。そこで、『大阪女学院』で、『女』だからこそ、今、自分が学べることは何だろうと考えてみた。まず、「大阪女学院」というからには、「女」でなければ入学できない。当然のことだけど、私には何だかそれが、特別な特権のように感じられる。私の場合、姉が女学院に通っていた時に、彼女を見ていて、自分のどこまでできるかを試してみたくて、「絶対に無理」と、高校の教師が口を揃えて言っていたこの大学に合格・入学し、日々の課題を追われるままにその時その時にこなしてきたが、1年前の私と、今の私では、1人の女性として、また人間として確実に自分の中の意識が違うのが分かる。前までは大勢がいる前で歌うなんて、とんでもないと思っていた私が、ゴスペル部に身を置いて、仲間と一緒に歌っている。好きなものを反対意見を持つ人の前で好きと言えなかったが、それを自分の意見として、「私はこっちの方が好きなんだ」と伝える事ができるようになった。授業中、自分のやってきた予習の答えを皆の前で発表するなんて、とてもじゃないができなかったが、間違っているかもしれないけれども、恐れずに自分の考えてきた答えや意見を言えるようになった。チャペルアワーの時、賛美歌を賛美することを心地よく感じ、それを堂々と人に言える自分がいて、やっと自分らしく生きていくと感ぜられるようになった。そしてまた、自分がそうする為には、人の話を聴くことがいかに大切かということも、実感できるようになった。人の言い分を聞かないで否定するということは、その人全てを否定することにも繋がると言える。それを教えてくれたのは、先生や、関わる全ての

人だと、今は素直に感じる事ができる。私にとって講師の影響というものはすごく大きく『特別』だが、それは『最初から特別な人間』がいるのではなく、『ひとりひとり』が『最初から特別』な人間であって、それを認められることが大切なのだ。私は女学院で過ごす毎日で、そのことを学び、また、それを学ぶのは他の大学では不可能に近いのではないかとも思っている。

さて、私はここまで、『私が大阪女学院で学ぶこと』について書いたが、大学というのは学校であり、学校というのはいつかは卒業するものである。私が所属するのは短期大学で、そのまま就職を選んだとして、4年制に行っているほとんどの同学年の学生よりも社会に出るのが少し早い。勿論、『普通の大学』のイメージからはかけ離れた大量の課題やディスカッション、プレゼンなどが、卒業する頃の私たちを、どこへ出しても恥ずかしくないような女性にしてくれるのは、卒業生でもある自分の姉が、今現在も生き生きとして働いているのを見ても分かることだ。しかし、女学院で学んだ後、仮にすぐ就職したとして、そこで今のままの自分が働くことに、正直ものすごく不安を感じずにはいられない。やっと自分の意見を言えるようになった今、ちょっとしたことでディスカッションして、自分の納得のいくまで向き合って話し合う。それが今の私のやり方であって、社会へ出るとそんなわけにいかなくなる。現実問題、納得がいかないからといって、いちいち話し合ってくれる人もいないし、意見の交換なんて出来ない。当たり前だが、全てのことが『女学院流』では通らなくなるのだ。今の日本人には、正面から向き合ってくれる人は少ない。その中で、自分だけがいつも本音でぶつかり、感情を素直にだしては、周りは敵ばかりになってしまう。だからといって「周りとうまくやっていく」というのは周りに合わせて、今までのことを無駄にすることではないと私は思っている。私が働く時には、私が今までやってきたことを無駄にせず、必要であれば、引かずに周りとの調和を保っていきたいと思っている。意見が衝突した時などには女学院で学んだ「話をちゃんと聴く」ことも忘れないでいたい。今の時点での話だから、勿論これは理想論だけれど。

さて、今までは自分の『1人の人間として』のケースだったが、ここで忘れてはならないのは『1人の女性として』である。私は、やってもみないことを諦めるのは、「無理」と言われたこの大学に受かった時から止めると決めた。諦めなかった結果が今こうして生きているのだから、女性がもっと社会的立場を高めることも『諦めない』という小さなことから、大きな一歩を踏み出せるのではないかと考えている。

最後に、私はこの大学に入って、一生を通しての『女の仕事』について、今まで持っていた考えを、考え直すようになった。他人の答えはそれぞれだ。『家庭を守ること』『仕事を沢山こなして出世』など。結婚を望まない人だっている。今の私は女性の一生を通しての仕事は『女性が、女性らしく生きること』だと考えている。自分が女性である事に誇りを持って生きるということが一番重要であり、一番難しい。しかし、この「大阪女学院」に通っている人、又は通っていた人になら、その難しい『仕事』もできるのではないかというこの考えは、かえることが出来ない。私の進路ややりたい事はこの先変わることもあ

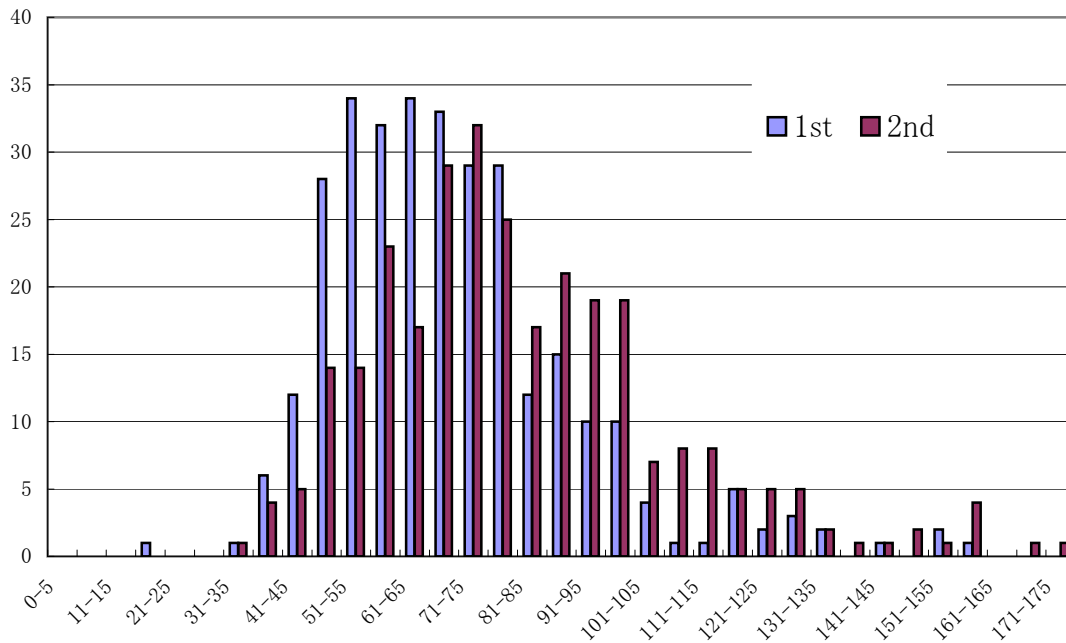
るかもしれない。「子どもを産みたいからこの年で結婚しよう」とか、「この仕事についてこんなこともしたい」などという具体的な考えは、決してその通りにはいかないだろう。しかし、私が私らしく生きていく為に、私は今、ここで学び、そして働くのだと、私は確信している。

2004(平成16)年度卒業生Proficiency Test受検結果

1. 学年での変化

	1年次7月	2年次2月
平均	69.9	81.3
最高値	159	173
最低値	20	34

2. 分布状況



3. クラス別の変化

1年次クラス	1年次7月	2年次2月
a	113.9	131
b	91.7	109.7
c	71.4	83.6
d	63.3	72.3
e	58.7	68.2

群	授業科目	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位の修得状況(%)				最終評価(%)								評価資格 不合格 (%)	
					本試験	追試験	再試験	合計	A	B	C	F	IC	Pass	認定	試験 欠席		
コア基本群	Core Studies I - 1	演習	220	平常点、課題、Quiz、パラグラフ、エッセイ	94.1	0.0	0.0	94.1	52.7	36.8	4.5	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	Core Studies I - 2	演習	220	平常点、課題、Quiz、エッセイ	90.0	0.0	0.0	90.0	39.1	35.0	15.5	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5
	Core Studies II - 1	演習	220	平常点、課題、Quiz、筆記試験、学期末試験	84.5	0.5	0.0	85.0	34.1	27.7	28.6	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	3.2
	Core Studies II - 2	演習	219	平常点、課題、Quiz、筆記試験、学期末試験	89.0	2.3	0.0	91.3	38.8	29.7	22.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8
	Core Studies III - 1	演習	220	平常点(Dialogue、Presentation含む)	94.5	0.0	0.0	94.5	52.7	30.9	10.9	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1
	Core Studies III - 2	演習	220		90.9	0.0	0.0	90.9	46.8	31.8	12.3	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2
コア基本群	Core Studies I - 1 (再履修)	演習	6	平常点、課題、Quiz、パラグラフ、エッセイ	100.0	0.0	0.0	100.0	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	Core Studies I - 2 (再履修)	演習	21	平常点、課題、Quiz、エッセイ	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0	19.0	47.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
	Core Studies II - 1 (再履修)	演習	31	平常点、課題、Quiz、筆記試験、学期末試験	58.1	0.0	0.0	58.1	6.5	12.9	45.2	32.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2
	Core Studies II - 2 (再履修)	演習	33	平常点、課題、Quiz、筆記試験、学期末試験	60.6	0.0	0.0	60.6	3.0	21.2	36.4	15.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.2
	Core Studies III - 1 (再履修)	演習	2	平常点(Dialogue、Presentation含む)	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	Core Studies III - 2 (再履修)	演習	11		72.7	0.0	0.0	72.7	0.0	9.1	63.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3
コア展開群	Topic Studies I - 1	演習	317	平常点、リサーチペーパー、プレゼンテーション、学期末試験	95.0	0.0	0.0	95.0	43.2	35.6	15.8	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
	Topic Studies I - 2	演習	309	平常点、リサーチペーパー、プレゼンテーション、学期末試験	91.9	0.0	0.0	91.9	43.0	37.9	11.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4
	Topic Studies II - 1	演習	348	平常点、リサーチペーパー、学期末試験	90.8	0.0	0.0	90.8	27.6	35.3	27.9	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	Topic Studies II - 2	演習	316	平常点、リサーチペーパー、学期末試験	92.1	0.0	0.0	92.1	31.0	37.3	23.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3
	Topic Studies III - 1	演習	319	平常点、課題、Quiz、学期末試験	90.3	0.3	0.0	90.6	42.9	28.5	21.9	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1
	Topic Studies III - 2	演習	311	平常点、課題、Quiz、学期末試験	92.0	0.6	0.0	92.6	50.5	28.9	13.8	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	4.2
	日本がたどった歩み	講義	休講	休講														
	平和への課題	講義	66	レポート、平常点	92.4	1.5	0.0	93.9	45.5	45.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0
	紛争の構造	講義	26	レポート、平常点	88.5	0.0	0.0	88.5	61.5	15.4	11.5	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
	第三世界の政治	講義	100	感想文	97.0	0.0	0.0	97.0	57.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	国際社会の変容	講義	34	レポート、平常点	79.4	0.0	0.0	79.4	58.8	20.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.6
	変わりゆく世界経済	講義	31	レポート、平常点	71.0	3.2	0.0	74.2	29.0	41.9	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	19.4
	国際政治とオリンピック	講義	52	レポート、平常点	94.2	0.0	0.0	94.2	51.9	38.5	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	1.9
	Peace and the Role of the Arts	講義	12	平常点、課題、エッセイ	66.7	0.0	0.0	66.7	16.7	33.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	生命科学と倫理	講義	20	レポート	90.0	0.0	0.0	90.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	生の理解と死の理解	講義	13	論文、発表、平常点	46.2	0.0	0.0	46.2	38.5	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	46.2
宇宙観の歴史	講義	31	レポート、平常点	71.0	0.0	0.0	71.0	19.4	51.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.7	19.4	
科学の最前線	講義	9	レポート、平常点	77.8	0.0	0.0	77.8	66.7	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	
現代人と宗教	講義	17	学期末試験	94.1	0.0	0.0	94.1	76.5	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	
医療と倫理	講義	20	平常点、学期末試験、レポート	80.0	0.0	0.0	80.0	40.0	10.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	15.0	

群	授業科目	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位の修得状況(%)				最終評価(%)								評価資格 不合格 (%)		
					本試験	追試験	再試験	合計	A	B	C	F	IC	Pass	認定	試験 欠席			
基礎コミュニケーション群	研究調査法	演習	270	小論文、課題、学期末試験	82.2	0.0	0.0	82.2	40.0	28.9	13.3	10.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	
	子どもことば	講義	13	学期末試験、クラスワーク、レポート、Quiz	76.9	0.0	0.0	76.9	53.8	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	15.4	
	言語学	講義	33	学期末試験、課題、レポート	84.8	0.0	0.0	84.8	33.3	33.3	18.2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	9.1	
	社会言語学	講義	26	筆記試験、課題、レポート	92.3	0.0	0.0	92.3	23.1	50.0	19.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	3.8	
	心理言語学	講義	19	学期末試験、レポート	94.7	0.0	0.0	94.7	94.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	
	英語学	講義	21	Quiz	76.2	0.0	0.0	76.2	42.9	28.6	4.8	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	英語史	講義	10	学期末試験、平常点、課題	80.0	0.0	0.0	80.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	
	言語と文化	講義	27	学期末試験、レポート	48.1	0.0	0.0	48.1	25.9	14.8	7.4	29.6	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	14.8	
	日本語教授法-1	演習	休講	休講															
	日本語教授法-2	演習	休講	休講															
	異文化間コミュニケーション	講義	55	平常点、プレゼンテーション、学期末試験、課題	83.6	0.0	0.0	83.6	52.7	23.6	7.3	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7
	異文化間リサーチ演習	講義2+演習2	16	現地授業(プレゼンテーション等)、レポート、	93.8	0.0	0.0	93.8	93.8	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	地域研究(アメリカ)	講義2+演習2	休講	休講															
	異文化間教育理解研究 -ケーススタディー:アフリカケニア	演習	休講	休講															
	地域研究(沖縄)	講義1+演習1	8	フィールドワークノート、平常点、共同作業	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	地域研究(バングラデシュ・チッタゴン)	講義1+演習1	7	レポート、平常点、発表	100.0	0.0	0.0	100.0	57.1	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
コンピュータコミュニケーション	演習	28	平常点	89.3	0.0	0.0	89.3	89.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.7		
英文学史	講義	10	学期末試験、平常点、Quiz	90.0	0.0	0.0	90.0	40.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0		
米文学史	講義	8	学期末試験	50.0	0.0	0.0	50.0	37.5	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0		
プレゼンテーション	演習	11	課題、平常点	81.8	0.0	0.0	81.8	81.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2		
文章表現法	演習	34	作品	67.6	0.0	0.0	67.6	35.3	32.4	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.4		
文章表現法 II	演習	32	作品	90.6	0.0	0.0	90.6	50.0	18.8	21.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3		
口語表現法	演習	休講	休講																
音楽と表現 - 1	演習	22	課題、平常点	95.5	0.0	0.0	95.5	81.8	4.5	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5		
音楽と表現 - 2	演習	16	課題、平常点	81.3	0.0	0.0	81.3	68.8	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8		
手話表現	演習	38	平常点	92.1	0.0	0.0	92.1	44.7	47.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9		
点字表現	演習	17	平常点、課題、学期末試験	94.1	0.0	0.0	94.1	64.7	23.5	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9		
人間と建築	講義	40	平常点、エッセイ、Quiz	87.5	0.0	0.0	87.5	27.5	47.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5		
日本語学 I	講義	21	学期末試験、課題、平常点	85.7	0.0	0.0	85.7	42.9	23.8	19.0	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8		
日本語学 II	講義	7	平常点、発表、レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
Drama	演習	7	平常点、発表	85.7	0.0	0.0	85.7	14.3	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3		
Creative Writing	演習	休講	休講																
News Writing	演習	11	平常点	36.4	0.0	0.0	36.4	9.1	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.5		
German I-1	演習	49	平常点、課題	81.6	0.0	0.0	81.6	69.4	12.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.4		
German I-2	演習	42	平常点、課題	78.6	0.0	0.0	78.6	59.5	19.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4		
German II-1	演習	35	平常点、課題、会話テスト	91.4	0.0	0.0	91.4	57.1	28.6	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	2.9		
German II-2	演習	27	平常点、課題、プレゼンテーション	100.0	0.0	0.0	100.0	59.3	29.6	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
French I-1	演習	38	学期末試験、Quiz、平常点	94.7	2.6	0.0	97.4	7.9	21.1	68.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6		
French I-2	演習	39	学期末試験、Quiz、平常点	79.5	0.0	0.0	79.5	20.5	20.5	38.5	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	10.3		
French II-1	演習	35	学期末試験、Quiz、平常点	91.4	0.0	0.0	91.4	37.1	25.7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.6		

表現コミュニケーション群

群	授業科目	授業形態	履修人数	主な単位認定の方法	単位の修得状況(%)				最終評価(%)								評価資格不合格(%)	
					本試験	追試験	再試験	合計	A	B	C	F	IC	Pass	認定	試験欠席		
表現コミュニケーション群	French II - 2	演習	31	学期末試験、Quiz、平常点	93.5	0.0	0.0	93.5	19.4	35.5	38.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5
	Korean I-1	演習	44	学期末試験、平常点、課題、Quiz	93.2	0.0	0.0	93.2	50.0	20.5	22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8
	Korean I-2	演習	37	学期末試験、平常点、課題、Quiz	83.8	0.0	0.0	83.8	56.8	16.2	10.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	13.5
	Korean II - 1	演習	24	学期末試験、平常点、課題、Quiz	95.8	0.0	0.0	95.8	45.8	37.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
	Korean II - 2	演習	22	学期末試験、平常点、課題、Quiz	95.5	0.0	0.0	95.5	50.0	36.4	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
	Chinese I-1	演習	59	平常点、学期末試験	84.7	0.0	0.0	84.7	50.8	18.6	15.3	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8
	Chinese I-2	演習	50	平常点、学期末試験	68.0	2.0	0.0	70.0	40.0	16.0	14.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0
	Chinese II - 1	演習	49	平常点、学期末試験	95.9	0.0	0.0	95.9	69.4	16.3	10.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1
	Chinese II - 2	演習	48	平常点、学期末試験	83.3	0.0	0.0	83.3	64.6	10.4	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	12.5
	Spanish I-1	演習	25	平常点、学期末試験、課題	88.0	0.0	0.0	88.0	40.0	20.0	28.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
	Spanish I-2	演習	18	平常点、学期末試験、課題	72.2	0.0	0.0	72.2	55.6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.8
	Spanish II - 1	演習	21	平常点、学期末試験、課題、レポート	81.0	0.0	0.0	81.0	33.3	23.8	23.8	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	Spanish II - 2	演習	11	平常点、学期末試験、課題、レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	72.7	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	Arabic I-1	演習	16	平常点、レポート	93.8	0.0	0.0	93.8	87.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0
	Arabic I-2	演習	17	平常点、レポート	82.4	0.0	0.0	82.4	11.8	23.5	47.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.6
	Russian I-1	演習	8	平常点、学期末試験、Quiz、課題	87.5	0.0	0.0	87.5	75.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
	Russian I-2	演習	7	平常点、学期末試験、Quiz、課題	85.7	0.0	0.0	85.7	71.4	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	Swahili I-1	演習	7	平常点、Quiz、課題、学期末試験	57.1	0.0	0.0	57.1	0.0	14.3	42.9	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	Swahili I-2	演習	3	平常点、Quiz、課題、学期末試験	66.7	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
専門職業群	グローバルビジネス	講義	34	レポート、グループワーク、プレゼンテーション	91.2	0.0	0.0	91.2	52.9	29.4	8.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	
	広報戦略	講義	42	レポート、発表	71.4	4.8	0.0	76.2	40.5	23.8	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	16.7	
	The Managerial Enterprise	講義	31	レポート、平常点	80.6	0.0	0.0	80.6	38.7	25.8	16.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	16.1	
	Management Studies:Case Study	講義	14	レポート、平常点	78.6	0.0	0.0	78.6	14.3	35.7	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	
	Management Seminar	講義	23	レポート	78.3	4.3	0.0	82.6	65.2	8.7	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	4.3	
	経営入門	講義	5	レポート、平常点	100.0	0.0	0.0	100.0	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	What is Management	講義	29	学期末試験、平常点	89.7	0.0	0.0	89.7	55.2	17.2	17.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	6.9	
教職専門科目群	英語科教育法	演習	16	パフォーマンス、レポート、学期末試験	81.3	0.0	0.0	81.3	31.3	43.8	6.3	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	教育実習	実習	11	実習評価	100.0	0.0	0.0	100.0	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	教育制度と学校経営	講義	12	学期末試験、平常点、レポート	91.7	0.0	0.0	91.7	66.7	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	
	教育方法の研究	演習	14	課題、レポート	92.9	0.0	0.0	92.9	85.7	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	
	国際社会と新しい価値観	講義	13	平常点	92.3	0.0	0.0	92.3	92.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	
	生徒指導の実際	講義	13	レポート、課題、平常点	92.3	0.0	0.0	92.3	15.4	46.2	30.8	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	進路指導の実際	講義	13	課題、Quiz、平常点	100.0	0.0	0.0	100.0	84.6	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	特別教育活動の指導	講義	11	レポート、課題、平常点	100.0	0.0	0.0	100.0	18.2	45.5	36.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	教育相談の実際	講義	14	レポート、平常点	92.9	7.1	0.0	100.0	64.3	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	教育の21世紀的課題	講義	12	平常点、レポート	91.7	0.0	0.0	91.7	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	
	教員の職務・責務	講義	14	学期末試験、平常点、レポート	100.0	0.0	0.0	100.0	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	教職専門科目群	事前・事後指導	講義	11	課題、発表	100.0	0.0	0.0	100.0	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
道徳教育の意義と方法		講義	10	平常点、レポート、プレゼンテーション	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
教育学の世界		講義	11	レポート、平常点	100.0	0.0	0.0	100.0	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発達と心理		講義	24	学期末試験	66.7	0.0	0.0	66.7	45.8	16.7	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	

入学年度別卒業率

入学年度	入学者数	2年卒業	同卒業率(%)	最終卒業者数	最終卒業率(%)	退学者数	退学率(%)	在学者数	在学者率(%)	休学者数	休学者率(%)
2005	192	-	-	-	-	-	-	192	100.0		
2004	215	-	-	-	-	9	4.2	202	94.0	4	1.9
2003	327	247	75.5	247	(75.5)	23	7.0	57	17.4		
2002	348	267	76.7	309	(88.8)	24	6.9	15	4.3		
2001	352	268	76.1	319	(90.6)	28	8.0	3	0.9		
2000	337	256	76.0	307	91.1	30	8.9	0	0.0		
1999	380	302	79.5	355	93.4	25	6.6	0	0.0		
1998	402	304	75.6	364	90.5	38	9.5	0	0.0		
1997	418	348	83.3	389	93.1	29	6.9	0	0.0		
1996	360	286	79.4	340	94.4	20	5.6	0	0.0		
1995	408	335	82.1	388	95.1	20	4.9	0	0.0		
1994	379	328	86.5	363	95.8	16	4.2	0	0.0		
1993	382	338	88.5	368	96.3	14	3.7	0	0.0		
1992	362	314	86.7	345	95.3	17	4.7	0	0.0		
1991	368	331	89.9	361	98.1	7	1.9	0	0.0		
1990	346	298	86.1	333	96.2	13	3.8	0	0.0		
1989	291	262	90.0	286	98.3	5	1.7	0	0.0		
1988	258	243	94.2	251	97.3	7	2.7	0	0.0		
1987	242	227	93.8	236	97.5	6	2.5	0	0.0		
1986	230	213	92.6	228	99.1	2	0.9	0	0.0		
1985	240	227	94.6	239	99.6	1	0.4	0	0.0		

*2001年度以降の入学者については、在学者がいるため、最終卒業率は未確定である。

2003(平成 15)年度 2004(平成 16)年度保健室利用状況

	年度	1 年生	2 年生	再履修生	合計(再履修生除)
内科系	2003	2 3 3 人	4 1 1 人		6 4 4 人
	2004	2 2 4	4 1 0	9 5 人	6 3 4
	up 率	96.1%	99.8%		
外科系	2003	9 9	1 6 2		2 6 1
	2004	8 4	1 4 4	1 1	2 2 8
	up 率	84.8%	88.9%		
感覚器系	2003	5 6	7 3		1 2 9
	2004	4 3	9 9	9	1 4 2
	up 率	76.8%	135.6%		
婦人科系	2003	8 2	7 1		1 5 3
	2004	3 7	8 1	6	1 1 8
	up 率	45.1%	114.1%		
相談	2003	1 0 0	1 5 0		2 5 0
	2004	7 7	1 8 8	2 0	2 6 5
	up 率	77.0%	125.3%		
その他	2003	2 0 6	5 8 7		7 9 3
	2004	4 6 2	7 1 0	240	1, 1 7 2
	up 率	224.3%	121.0%		
合計	2003	7 7 6	1 4 5 4		2, 2 3 0
	2004	9 2 7	1 6 3 2	381	2, 5 5 9
	up 率	119.5%	112.2%		

2002(平成 14)年度から 2004(平成 16)年度就職状況

	2002年度 (平成 14)	2003年度 (平成 15)	2004年度 (平成 16)
(a) 卒業生数	325人	335人	299人
(b) 就職希望者数 割合 (b) ÷ (a)	178人 54.7%	174人 51.9%	174人 58.1%
(c) 学校で斡旋した就職者数 割合 (c) ÷ (b)	134人 75.2%	134人 77.0%	123人 73.2%
(d) 自己開拓分の就職者数 割合 (d) ÷ (b)	44人 24.7%	40人 22.9%	45人 26.7%
(e) 不明・無業者数 割合 (e) ÷ (a)	— 人 — %	— 人 — %	6人 0.02%

<規模別>

	2002年度	2003年度	2004年度
巨大企業	60 (人) 33.7 (%)	63 (人) 36.2 (%)	48 (人) 28.6 (%)
大企業	46 25.8	37 21.3	42 25.0
中企業	32 18.0	47 27.0	52 31.0
小企業	15 8.4	14 8.0	13 7.7
公務員	1 0.6	3 1.7	1 0.6
その他	24 13.5	10 5.7	12 7.1
合計	178 100.0	174 100.0	168 100.0

巨大企業:資本金 100 億円以上または従業員 3000 人以上
 大企業:資本金 10 億円以上または従業員 1000 人以上
 中企業:資本金 1 億円以上または従業員 100 人以上
 小企業:資本金 1 億円未満かつ従業員 100 人未満

<業種別>

	2002年度		2003年度		2004年度	
建設	3人	1.7%	0人	0.0%	0人	0.0%
製造	38	21.3	39	22.4	38	22.6
卸・小売	38	21.3	36	20.7	40	23.8
金融	44	24.7	36	20.7	23	13.7
不動産	0	0.0	1	0.6	0	0.0
情報通信	5	2.8	6	3.4	5	3.0
運輸	7	3.9	6	3.4	9	5.4
エネルギー	0	0.0	0	0.0	0	0.0
教育	4	2.2	6	3.4	3	1.8
飲食店	7	3.9	9	5.2	6	3.6
医療・福祉	5	2.8	4	2.3	5	3.0
サービス	23	12.9	21	12.1	33	19.6
その他団体	3	1.7	4	2.3	4	2.4
公務員	1	0.6	3	1.7	1	0.6
その他	0	0.0	3	1.7	1	0.6
合計	178	100.0	174	100.0	168	100.0

2002(平成14)年度～2004(平成16)年度 編入学状況一覧

	大学名	学部名	2002年度			2003年度			2004年度		
			合格	入学	指定	合格	入学	指定	合格	入学	指定
	東京外国語大学	外国語学部							1	1	
	金沢大学	法学部							1		
	三重大学	人文学部	1	1		2	2				
	滋賀大学	経済学部				1			1		
	京都教育大学	教育学部				1	1		2	2	
	大阪大学	人間科学部							1		
	神戸大学	発達科学部	1	1		1	1		1	1	
		経済学部				2	2				
		経営学部							1	1	
	奈良女子大学	文学部							3	3	
	和歌山大学	経済学部	2	2		2			1	1	
	岡山大学	経済学部				1	1				
	広島大学	法学部2部							1	1	
	香川大学	経済学部				2	1				
		法学部							1	1	
	愛媛大学	農学部				1	1				
	長崎大学	環境科学部				1					
公立	京都府立大学	文学部	1	1					2	1	
	大阪府立大学	総合科学部	2	2		2	2				
	大阪女子大学	人文社会学部	2	2		2	2				
		外国語学部								1	1
		2部				1	1				
	奈良県立大学	地域創造学部				1	1				
姫路工業大学	環境人間学部				1	1					
私立	南山大学	総合政策学部							1	1	1
	京都女子大学	人文社会学部							1	1	
	同志社大学	文学部							2	2	
		法学部				1	1				
	同志社女子大学	学芸学部	1	1					4	3	
		現代社会学部	1	1		2			1		
京都精華大学	人文学部	1	1								

京都産業大学	法学部				1	1				
京都外国語大学	外国語学部	3	3		1	1		3	3	
京都橘大学	文化政策学部							1	1	
仏教大学	社会学部							1	1	
立命館大学	文学部				2	2		2	2	1
	国際関係学部	4	4		2	2		2	2	
	法学部	1	1					3	2	
	政策科学学部	5	3	1	2	2	2	3	3	2
	産業社会学部	1	1	1	1	1		1	1	1
	経済学部	2	2							
龍谷大学	経営学部				2	2		1	1	
	国際文化学部							1	1	
	社会学部							1	1	
桃山学院大学	社会学部				1	1				
大阪体育大学	体育学部	1	1							
関西大学	社会学部	1	1							
	文学部	1								
	商学部							1		
	総合情報学部	1	1					1	1	
近畿大学	文芸学部				1					
四天王寺国際仏教大	人文社会学部							1	1	
関西外国語大学	外国語学部				1	1				
	国際言語学部							1	1	
大阪女学院大学	国際・英語学部							6	6	
関西学院大学	神学部							3	3	
	法学部				1	1		1		
	社会学部	2	2	1				1	1	
	総合政策学部	15	15	2	18	15	1	13	12	3
神戸国際大学	経済学部	1								
甲南大学	文学部				1	1				
神戸松蔭女子学院大	文学部	1								
ノートルダム清心女	文学部							1		
広島修道大学	法学部							1	1	
広島女学院大学	文学部							1		
合 計		51	46	5	58	47	3	76	64	8

2002(平成14)年度～2004(平成16)年度専任教員研究業績

(平成17年4月現在の在職者に限る)

氏名	職名	研究業績					国際的 活動の 有無	公的な 機関の 委員の 有無	備考
		著作 数	学術 論文 数	学会 発表 数	その 他の 著作 数	その 他の 発表 数			
川岸 清	教授				1		無	有	
中井 弘一	教授	1			2	1	無	有	
Aljets, Merrit G.	教授				1		無	無	
Swenson, Tamara A.	教授		4	1	3		無	無	
McCarty, Steve A.	教授		3	3	10	4	無	無	
Verity, Deryn	教授		2	1	2		有	無	
稲田 依久	助教授	1			1		無	無	
Cline, William D.	助教授						無	無	
Fujimoto, Donna T.	助教授		7	4			無	無	
肴倉 宏	専任講師		2				無	無	
Hansen, Jerrord	専任講師		4	1	2		無	無	
関根 聡	専任講師		3				無	有	

(註)「その他の著作」：報告書、雑誌、新聞等をいう。

「その他の発表」：シンポジウム、講演、放送等をいう。

「国際的な活動」：外国政府等の公的機関が主催するシンポジウム等の講師

2004年度公開講座の実施状況

	講座等の名称	開設期間	受講者数
1	Oral Communication: Int.	4/20～6/29	5
2	Oral Communication	4/20～6/29	13
3	国際会計検定(BATIC)12週	4/13～7/6	17
4	スペイン語2	4/20～6/29	8
5	日本語教師への道	4/20～6/29	9
6	華道(池坊)入門	4/20～6/29	8
7	茶道(裏千家)小習	4/20～6/29	7
8	健康太極拳入門(火曜)	4/20～6/29	27
9	TOEIC700	4/21～6/30	18
10	English for Trading Business 1	4/21～6/30	16
11	韓国語1	4/21～6/30	15
12	フランス語1	4/21～6/30	14
13	茶道(裏千家)入門B	4/21～6/30	7
14	Oral Communication: Int.	4/22～7/1	7
15	Current Topics	4/22～7/1	20
16	English Translation	4/22～7/1	15
17	English Guide Training	4/22～7/1	11
18	英検2級要点7週	5/13～7/1	6
19	韓国語3	4/22～7/1	9
20	スペイン語1	4/22～7/1	8
21	フィンランド語1	4/22～7/1	10
22	Listening for Test-Taking	4/24～6/26	6
23	Oral Communication	4/24～6/26	15
24	TOEIC900	4/24～6/26	22
25	中国語1	4/24～6/26	10
26	茶道(裏千家)続・入門	4/24～6/26	8
27	はじめての陶芸	4/24、5/8・22	14
28	Word初級5週	4/24～5/22	4
29	Word応用5週	5/29～6/26	9
30	Oral Communication: Adv.	4/24～6/26	7
31	Current Topics: Int.	4/24～6/26	18
32	Speech Clinic2	4/24～6/26	13
33	TOEIC600	4/24～6/26	19
34	TOEIC800	4/24～6/26	19
35	Interpreter Training2	4/24～6/26	9
36	フィンランド語3	4/24～6/26	6
37	カラ・コーディネート入門	4/24～6/26	17
38	茶道(裏千家)入門A	4/24～6/26	9
39	創作陶芸	4/24～6/26	8
40	Excel初級5週	4/24、5/8・22	18
41	Excel関数5週	5/29～6/26	6
42	Current Topics: Adv.聴く・話す-上級	4/24～6/26	12
43	Oral Communication: Int.話す-中級	4/24～6/26	12
44	Oral Communication話す-初級	4/24～6/26	8
45	Speech Clinic3発音診断・矯正	4/24～6/26	9
46	TOEFL550 Writing書く	4/24～6/26	5
47	Reading Newspapers and Discussion	4/24～6/26	5
48	韓国語2	4/24～6/26	13
49	フィンランド語2	4/24～6/26	4
50	フランス語2	4/24～6/26	7

2004年度公開講座の実施状況

	講座等の名称	開設期間	受講者数
51	ゴスペル	4/24～6/26	70
52	健康太極拳入門(土曜)	4/24～6/26	25
53	夏季健康太極拳	7/6～9/7	26
54	Video-based listening & discussion	9/21～11/30	8
55	国際会計検定(BATIC)12週	9/14～12/7	12
56	中国語1	9/21～11/30	7
57	フランス語1	9/21～11/30	7
58	スペイン語3	9/28～12/7	5
59	華道(池坊)入門	9/21～11/30	6
60	茶道(裏千家)続・小習	9/21～11/30	5
61	健康太極拳入門～二十四式	9/21～11/30	13
62	Current Topics: Int.	9/22～12/1	13
63	Interpreter Training1	9/22～12/1	9
64	TOEIC700	9/22～12/1	6
65	韓国語続1	9/22～12/1	12
66	フランス語2	9/22～12/1	8
67	茶道(裏千家)続・入門B	9/22～12/1	5
68	聖書と世界	9/22～12/1	6
69	Video-based listening & discussion: Adv.	9/30～12/2	6
70	Current Topics	9/30～12/2	14
71	TOEFL550Reading読む	9/30～12/2	5
72	English Guide Training	9/30～12/2	8
73	韓国語1	9/30～12/2	16
74	スペイン語2	9/30～12/2	9
75	フィンランド語2	9/30～12/2	9
76	名画で読む聖書	9/30～12/2	6
77	健康太極拳入門	9/30～12/2	18
78	Video-based listening & discussion: Int.	9/25～12/18	8
79	Academic Vocabulary	9/25～12/18	17
80	TOEIC900	9/25～12/18	10
81	English Study Skills	9/25～12/18	9
82	中国語2	9/25～12/18	6
83	茶道(裏千家)小習	9/25～12/18	5
84	はじめての陶芸	9/25、10/9・30	10
85	Word初級5週	9/25～10/30	7
86	Word応用5週	11/20～12/18	5
87	Video-based listening & discussion: Adv.	9/25～12/18	9
88	Current Topics: Int.	9/25～12/18	9
89	Speech Clinic3	9/25～12/18	8
90	TOEIC600	9/25～12/18	14
91	TOEIC800	9/25～12/18	18
92	Interpreter Training2	9/25～12/18	7
93	Grammar Clinic1	9/25～12/18	13
94	ハングル検定準2級	9/25～12/18	7
95	フィンランド語3	9/25～12/18	5
96	カラ-コーディネート入門	9/25～12/18	9
97	茶道(裏千家)続・入門A	9/25～12/18	6
98	創作陶芸	9/25、10/9・30	8
99	Excel初級5週	9/25～10/30	17
100	Excel関数5週	11/20～12/18	6

2004年度公開講座の実施状況

	講座等の名称	開設期間	受講者数
101	Current Topics: Adv.	9/25～12/18	6
102	Oral Communication	9/25～12/18	6
103	Speech Clinic1	9/25～12/18	12
104	TOEIC500	9/25～12/18	9
105	スペイン語1	9/25～12/18	8
106	フランス語3	9/25～12/18	6
107	ゴスペル	9/25～12/18	77
108	茶道(裏千家)入門B	9/25～12/18	7
109	健康太極拳入門～二十四式	9/25～12/18	15
110	韓国語2	9/25～12/18	12
111	フランス語1	2/22～3/22	5
112	韓国語続1	2/23～3/23	5
113	Interpreter Training1	2/23～3/23	3
114	聖書と世界	2/23～3/23	4
115	茶道(裏千家)	2/23～3/23	6
116	フィンランド語2	2/24～3/24	5
117	名画で読む聖書	2/24～3/24	4
118	韓国語1	2/24～3/24	13
119	健康太極拳	2/24～3/24	9
120	Academic Vocabulary	2/12～3/19	7
121	茶道(裏千家)	2/12～3/19	10
122	韓国語2	2/12～3/19	11
123	Grammar Clinic1	2/12～3/19	9
124	Current Topics: Adv.	2/12～3/19	6
125	健康太極拳	2/12～3/19	6
計			1370

学校法人大阪女学院寄附行為

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、学校法人大阪女学院と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、事務所を大阪市中央区玉造二丁目26番54号に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、キリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に従って、教育を行うことを目的とする。

(設置する学校)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる学校を設置する。

- (1) 大阪女学院大学 国際・英語学部 国際・英語学科
- (2) 大阪女学院短期大学 英語科
- (3) 大阪女学院高等学校 全日制課程 普通科, 英語科
- (4) 大阪女学院中学校
- (5) 大阪女学院第二高等学校 定時制課程 普通科

第3章 役員及び理事会

(院長及び副院長)

第5条 この法人に、院長及び副院長を置く。院長及び副院長は、理事会がこれを選任する。

2 院長は、前条の各学校の教学を統轄するとともに、理事会の議に従い、業務執行の責に任ずるものとする。副院長は、院長を補佐し、院長事故あるときは、その職務を代行する。

3 院長及び副院長の任期は、就任の日より4年とする。ただし、再任を妨げない。再任の任期は、2年とする。

4 院長は、任期満了の後でも、後任の院長が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(役員)

第6条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 14人以上16人以内
- (2) 監事 2人

2 理事のうち1人を理事長とし、理事会において選任する。

(理事の選任)

第7条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 大阪女学院長
- (2) 大阪女学院副院長
- (3) 大阪女学院大学長
- (4) 大阪女学院短期大学長
- (5) 大阪女学院高等学校長
- (6) 大阪女学院中学校長
- (7) 日本キリスト教団又は福音主義教会に属する教職より2人
- (8) 大阪女学院を卒業した者より2人
- (9) この学院内から理事会において適当と認める者2人以上3人以内
- (10) この学院外から理事会において適当と認める者2人以上3人以内

2 前項第7号及び第8号に規定する理事は、評議員の中から理事会がこれを選任する。

3 第1項第1号から第6号までに規定する理事は、院長、副院長、大学長、短期大学長、高等学校長又は中学校長の職を退いたとき、第7号及び第8号に規定する理事は、評議員の職を退いたとき並びに第9号に規定する理事は、この学院から退いたときは、理事の職を失うものとする。

4 第1項第1号から第6号までに規定する理事が院長、副院長、大学長、短期大学長、高等学校長又は中学校長の職を兼務したときは、第6条第1項第1号に規定する理事定数から兼務職数を減じた数をもって理事定数とする。

(監事の選任及び職務)

第8条 監事は、この法人の理事又は職員(学長、教員その他の職員を含む。以下同じ。)以外の者のうちから理事会において選任する。

2 監事は、次の各号に掲げる職務を行う。

- (1) この法人の財産の状況を監査すること。
- (2) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (3) この法人の財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査した結果、不整の点のあることを発見したとき、これを文部科学大臣又は評議員会に報告すること。
- (4) 前号の報告をするために必要があるとき、理事長に対して評議員会の招集を請求すること。

(5) 学校法人の財産の状況又は理事の業務執行の状況について理事に意見を述べることを。

(役員任期)

第9条 役員（第7条第1項第1号から第6号までに掲げる理事を除く。以下この条において同じ。）の任期は、4年とする。ただし、補欠の役員は、前任者の残任期間とする。

2 役員は、再任されることができる。

3 役員は、任期満了の後でも、後任の役員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

(役員補充)

第10条 理事又は監事のうち、その定数の5分の1をこえるものが欠けたときは、一月以内に補充しなければならない。

(役員解任)

第11条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事総数の4分の3以上出席した理事会において、理事総数の4分の3以上の議決及び評議員会の議決により、これを解任することができる。

(1) 法令の規定又はこの寄附行為に著しく違反したとき。

(2) 心身の故障のため職務の執行に堪えないとき。

(3) 職務上の義務に著しく違反したとき。

(理事会)

第12条 この法人に、理事会を置く。

2 理事会は、理事をもって組織する。

3 理事会は、理事長が招集する。

4 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内に、これを招集しなければならない。

5 理事会を招集するには、各理事に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合はこの限りでない。

7 理事会に議長を置き、理事長をもって充てる。

8 理事長が第4項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。

9 理事会は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の3分の2以上の理事が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。ただし、第12項の規定による除斥のため3分の2に達しないときは、

この限りでない。

10 前項の場合において、理事会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。

11 理事会の議事は、法令及びこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(業務の決定)

第13条 この法人の業務は、理事会で決定する。

(理事長の職務)

第14条 理事長は、法令及びこの寄附行為に規定する職務を行い、この法人内部の事務を総括し、この法人の業務について、この法人を代表する。

(理事の代表権の制限)

第15条 理事長以外の理事は、この法人の業務について、この法人を代表しない。

(理事長職務の代理等)

第16条 理事長に事故があるとき、又は理事長が欠けたときは、あらかじめ理事会において指名された理事が、その職務を代理し、又はその職務を行う。

(議事録)

第17条 議長は、理事会の開催の場所及び日時並びに議決事項及びその他の事項について、議事録を作成しなければならない。

2 議事録には、出席理事全員が署名押印し、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

第4章 評議員会及び評議員

(評議員会)

第18条 この法人に、評議員会を置く。

2 評議員会は、29人以上33人以内の評議員をもって組織する。

3 評議員会は、理事長が招集する。

4 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から20日以内に、これを招集しなければならない。

5 評議員会を招集するには、各評議員に対して、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。

6 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急

を要する場合は、この限りでない。

- 7 評議員会に議長を置き、議長は、理事長をもって充てる。
- 8 評議員会は、評議員総数の過半数の出席がなければ、その会議を開き、議決をすることができない。
- 9 前項の場合において、評議員会に付議される事項につき書面をもって、あらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、出席評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 前項の場合において、議長は、評議員として議決に加わることができない。

(議事録)

第19条 第17条の規定は、評議員会の議事録について準用する。この場合において、同条第2項中「出席理事全員」とあるのは、「議長及び出席評議員のうちから互選された評議員2人以上」と読み替えるものとする。

(諮問事項)

第20条 次の各号に掲げる事項については、理事長において、あらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。

- (1) 予算、借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分
- (2) 予算外の重要な義務の負担又は権利の放棄
- (3) 寄附行為の変更
- (4) 合併
- (5) 目的たる事業の成功の不能による解散
- (6) 寄附金品の募集に関する事項
- (7) その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの

(評議員会の意見具申等)

第21条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行状況について、役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができる。

(評議員の選任)

第22条 評議員は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 大阪女学院長
- (2) 大阪女学院副院長
- (3) 大阪女学院大学長
- (4) 大阪女学院短期大学長
- (5) 大阪女学院高等学校長

- (6) 大阪女学院中学校長
 - (7) この法人の職員で評議員会において選任した者 5 人
 - (8) この法人が設置する学校を卒業した者で年齢 25 才以上の者のうちから、理事会において選任した者 8 人
 - (9) 日本キリスト教団又は福音主義教会に属する教職のうちから、理事会において選任した者 4 人
 - (10) 学識経験者のうちから、理事会において選任した者 6 人以上 10 人以内
- 2 前項第 1 号から第 6 号までに規定する評議員はその職を退いたとき、第 7 号に規定する評議員はこの法人の職員の地位を退いたときは、評議員の職を失うものとする。
- 3 第 1 項第 1 号から第 6 号までに規定する評議員が院長、副院長、大学長、短期大学長、高等学校長又は中学校長の職を兼務したときは、第 18 条第 2 項に規定する評議員定数から兼務職数を減じた数をもって評議員定数とする。
(任期)
- 第 23 条** 評議員の任期は、4 年とする。ただし、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 評議員は、再任されることができる。
- 3 評議員は、任期満了の後でも、後任の評議員が選任されるまでは、なお、その職務を行う。

第 5 章 資産及び会計

(資産)

第 24 条 この法人の資産は、財産目録記載のとおりとする。

(資産の区分)

第 25 条 この法人の資産は、これを分けて基本財産、運用財産とする。

- 2 基本財産は、この法人の設置する学校に必要な施設及び設備又はこれらに要する資金とし、財産目録中基本財産の部に記載する財産及び将来基本財産に編入された財産とする。
- 3 運用財産は、この法人の設置する学校の経営に必要な財産とし、財産目録中運用財産の部に記載する財産及び将来運用財産に編入された財産とする。
- 4 寄附金品については、寄附者の指定がある場合には、その指定に従って基本財産又は運用財産に編入する。

(基本財産の処分の制限)

第 26 条 基本財産は、これを処分してはならない。ただし、この法人の事業の遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会において理事総数の 3 分の 2 以上の議決を得て、その一部に限り処分することができる。

(積立金の保管)

第 27 条 基本財産及び運用財産中の積立金は、確実な有価証券を購入し、又は確実な信託銀行に信託し、又は確実な銀行に定期預金とし、若しくは定期郵便貯金として理事長が保管する。

(経費の支弁)

第 28 条 この法人の設置する学校の経営に要する費用は、基本財産並びに運用財産中の不動産及び積立金から生ずる果実、授業料収入、入学金収入、検定料収入その他の運用財産をもって支弁する。

(会計)

第 29 条 この法人の会計は、学校法人会計基準により行う。

(予算)

第 30 条 この法人の予算は、毎会計年度開始前に、理事長が編成し、理事会において理事総数の3分の2以上の議決を得なければならない。これに重要な変更を加えようとするときも、同様とする。

(予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄)

第 31 条 予算をもって定めるものを除くほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会において理事総数の3分の2以上の議決がなければならない。借入金（当該会計年度内の収入をもって償還する一時の借入金を除く。）についても、同様とする。

(決算、余剰金等の処分)

第 32 条 この法人の決算は、毎会計年度終了後二月以内に作成し、監事の意見を求めるものとする。

2 決算は、毎会計年度終了後二月以内に、理事長において、監事の意見を付して評議員会に報告し、その意見を求めなければならない。

3 決算上剰余金を生じたときは、その一部又は全部を基本財産若しくは運用財産中の積立金に編入し、又は次会計年度に繰越しするものとする。

(財産目録等の備付)

第 33 条 この法人の財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、毎会計年度終了後二月以内に作成し、監事の意見を付して、常にこれを事務所に備えて置かなければならない。

(資産総額の変更登記)

第 34 条 この法人の資産総額の変更は、毎会計年度末の現在により、会計年度終了後二月以内に登記しなければならない。

(会計年度)

第 35 条 この法人の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終るものとする。

第 6 章 解散及び合併

(解散)

第 3 6 条 この法人は、次の各号に掲げる事由によって解散する。

- (1) 理事会における理事総数の 3 分の 2 以上の議決及び評議員会の議決
- (2) この法人の目的たる事業の成功の不能となった場合で、理事会における出席理事の 3 分の 2 以上の議決
- (3) 合併
- (4) 破産
- (5) 文部科学大臣の解散命令

2 前項第 1 号の掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認可を、同項第 2 号の掲げる事由による解散にあつては文部科学大臣の認定を受けなければならない。

(残余財産の帰属者)

第 3 7 条 この法人が解散した場合（合併又は破産によって解散した場合を除く。）における残余財産は、解散のときにおける理事会において理事総数の 3 分の 2 以上の議決により選定した学校法人又は教育の事業を行う公益法人に帰属する。

(合併)

第 3 8 条 この法人が合併しようとするときは、理事会において理事総数の 3 分の 2 以上の議決を得て文部科学大臣の認可を受けなければならない。

第 7 章 寄附行為の変更

(寄附行為の変更)

第 3 9 条 この寄附行為を変更しようとするときは、理事会において理事総数の 3 分の 2 以上の議決を得て、文部科学大臣の認可を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、私立学校法第 4 5 条第 2 項に定める寄附行為の変更をしたときは、遅滞なく、同施行規則第 4 条の 3 第 2 項に定める書類によって、文部科学大臣にその旨届け出なければならない。

第 8 章 補則

(書類及び帳簿の備付)

第 4 0 条 この法人は、次の各号に掲げる書類及び帳簿を、常に事務所に備えて置かななければならない。

- (1) 寄附行為

- (2) 役員及び評議員の名簿及び履歴書
- (3) 収入及び支出に関する帳簿及び証ひょう書類
- (4) その他必要な書類及び帳簿

(公告の方法)

第 4 1 条 この法人の公告は、大阪女学院の掲示場に掲示して行う。

(施行細則)

第 4 2 条 この寄附行為の施行についての細則その他この法人及びこの法人の設置する学校の管理及び運営に関し必要事項は、理事会が定める。

附 則

- 1 この寄附行為は、大阪府知事認可の日（昭和 2 6 年 3 月 7 日）から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事（理事長）	飯島 誠太
理事	桑田繁太郎
理事	西阪 保治
理事	近江岸弁之助
理事	森田金之助
理事	西村 次郎
理事	奥島 敬一
理事	阪田 京
理事	磯野 佳子
理事	ヘレン・エム・パーマー
理事	アリス・ジー・グループ
監事	阪田 素夫
監事	村田幸一郎
- 3 この寄附行為は、文部大臣認可の日（昭和 4 3 年 2 月 3 日）から改正施行する。
- 4 この寄附行為は、文部大臣認可の日（昭和 5 8 年 1 2 月 8 日）から改正施行する。
- 5 この寄附行為は、文部科学大臣認可の日（平成 1 5 年 1 1 月 2 7 日）から改正施行する。

平成14年度 理事会開催状況

学校法人 大阪女学院

理事会					
回	開催日時	議題	会場	出席状況	
				理事	監事
1	14.5.29			11	2
	自19:30	1 監事選任の件	レストランパレス	(委)1	
	至20:25	2 寄附行為改正の件			
		3 基本財産処分の件			
		4 2001年度予算補正の件			
		5 2001年度決算の件			
		6 2002年度予算確定の件			
2	14.7.22			10	2
	自19:00	1 中高教諭採用の件	レストランパレス	(委)2	
	至20:00	2 借入金			
		3 クリスマスセンター地上権買収に関する登記手続の完了について(報告)			
3	14.8.27			10	2
	自18:00	1 2003年度授業料の件	レストランパレス	(委)2	
	至19:45				
4	14.9.30			11	2
	自18:00	1 選挙管理委員及び補充員選任の件	レストランパレス	(委)1	
	至20:15	2 四年制大学設置審議会中間報告の件			
5	14.11.29			11	2
	自18:00	1 四年制大学設置審議会答申の件	レストランパレス	(委)1	
	至20:30	2 中学校・高等学校校長及び教頭選挙報告の件			
6	14.12.27			11	2
	自12:00	1 短期大学次期学長選任の件	ホテルグランヴィア大阪 「孔雀の間」	(委)1	
		2 中学校・高等学校校長及び教頭選挙報告の件			
7	15.1.27			10	2
	自18:00	1 人事の件	ホテルグランヴィア大阪 「鶴寿の間」	(委)2	
	至20:30				
8	15.2.17			10	1
	自18:00	1 名誉教授称号授与の件	ホテルグランヴィア大阪 「鶴寿の間」	(委)2	
	至19:45	2 退職給与引当特定資産取崩しの件			
		3 クリスマスコード適用の特例に関する件			
		4 短期大学教員昇格の件			
		5 事務職員職員昇進の件			
9	15.3.17			11	2
	自18:40	1 学長選任の件	レストランパレス	(委)1	
	至20:30	2 教員組織編成の件			
		3 寄附行為改正の件			
10	15.3.31				
	自18:00	1 中学校・高等学校校長及び教頭任命式	ホテルグランヴィア大阪 「鶴寿の間」	(委)1	
	至:21:00	2 理事選任の件			
		3 四年制大学設置申請に係る寄附行為改正の件			
		4 四年制大学設置経費の財源に関する件			
		5 2003年度予算(案)の件			

平成15年度 理事会開催状況

学校法人 大阪女学院

理事会					
回	開催日時	議題	会場	出席状況	
				理事	監事
1	15.5.29			11	2
	自19:30	1 学事報告	ホテルグランヴィア大阪	(委)1	
	至20:45	2 四年制大学設置申請手続に関する経過報告	「鶴寿の間」		
		3 寄附行為一部訂正に関する報告			
		4 基本財産処分の件			
		5 四年制大学設置経費の財源に関する件			
		6 2002年度決算に関する件			
		7 2003年度予算確定に関する件			
		8 四年制大学及び短期大学財務予測に関する件			
		9 四年制大学及び短期大学の専任教員の任期及び昇格に関する件			
2	15.7.23			8	2
	自18:00	1 中高教諭採用の件	ホテルグランヴィア大阪	(委)4	
	至20:00	2 人事の件	「孔雀の間」		
		3 学院運営会議規程制定の件			
3	15.9.1			11	2
	自18:00	1 2004年度授業料の件	ホテルグランヴィア大阪	(委)1	
	至20:15		「孔雀の間」		
4	15.10.6			11	2
	自18:00	1 人事の件	ホテルグランヴィア大阪	(委)1	
	至20:25	2 四年制大学設置に関する件	「鶴寿の間」		
		3 四年制大学設置に伴う北館の建設に関する件			
5	15.12.24			10	2
	自12:00	1 大阪女学院大学北館建設計画変更の件	ホテルグランヴィア大阪	(委)2	
	至15:30	2 大阪女学院短期大学学則変更の件	「孔雀の間」		
		3 規程管理規程制定の件			
		4 大阪女学院大学任期制教員規程制定の件			
		5 旅費規程・同運用要領改正の件			
		6 海外旅費規程・同運用要領改正の件			
6	16.2.27				
	自18:00	1 2004年度募集状況報告	ヒルトンホテル大阪	11	1
	至20:55	2 四年制大学開学に係る諸制度について	「京都の間」	(委)1	
		(1) 四年制・二年制開学準備検討事項について			
		(2) 大阪女学院大学教員就業規則制定の件			
		(3) 大阪女学院大学任期制教員規定改正の件			
		(4) 大阪女学院大学教員評価規程制定の件			
		(5) 大阪女学院大学の給与制度について			
		3 就業規則改正の件			
7	16.3.9				
	自18:00	1 法人組織の管理運営体制の件	ホテルグランヴィア大阪	11	1
	至19:50	2 四年制大学開学に係る諸制度について	「鶴寿の間」	(委)1	
		(1) 大阪女学院大学教員就業規則一部修正の件			
		(2) 大阪女学院大学C.G.O.就業内規制定の件			
		(3) 大阪女学院大学学長選任規程制定の件			
		3 就業規則改正(修正案)の件			
		4 大阪女学院大学学長代行及び同短期大学学長代行選任の件			

8	16.3.31				
	自13:30	1 学事報告	ホテルグランヴィア大阪	11	2
	至15:30	2 理事・監事・評議員辞任及び再任の件	「鶴寿の間」	(委)1	
		3 理事・評議員選任の件			
		4 事務職員昇格の件			
		5 事務職員採用の件			
		6 2004年度予算(案)の件			
		7 大学設置引当特定資産取崩しの件			
		8 四年制大学開学に係る諸規程の件			
		9 学院運営会議規程改正の件			
		10 旅費規程運用要領改正の件			
		11 校地・校舎変更の件			

平成16年度 理事会開催状況

学校法人 大阪女学院

理 事 会					
回	開催日時	議題	会場	出席状況	
				理事	監事
1	16.5.29			11	2
	自11:00	1 理事長・理事長代理選任の件	ホテルグランヴィア大阪	(委)3	
	至11:10		「孔雀の間」		
2	16.5.29			11	2
	自13:00	1 学事報告	ホテルグランヴィア大阪	(委)3	
	至14:50	2 2003年度予算補正の件	「孔雀の間」		
		3 基本財産処分の件			
		4 2003年度決算に関する件			
		5 2004年度予算確定に関する件			
		6 夏期工事の件			
3	16.7.20			14	2
	自18:00	1 中高教諭採用の件	ホテルグランヴィア大阪		
	至19:40		「鶴寿の間」		
4	16.9.7			12	2
	自12:00	1 2005年度授業料の件	大阪クリスチャンセンター	(委)2	
	至14:30		多目的ルーム		
5	16.11.26			12	2
	自18:00	1 中高教諭採用の件	大阪クリスチャンセンター	(委)2	
	至19:30		多目的ルーム		
6	16.12.27			13	2
	自14:30	1 懲戒委員会規程制定の件	ホテルグランヴィア大阪	(委)1	
	至15:30		「鶴寿の間」		
7	17.2.14			13	2
	自18:00	1 私立学校法改正への対応の件	ホテルグランヴィア大阪	(委)1	
	至19:45		「孔雀の間」		
8	17.3.14			13	2
	自12:00	1 次期院長・副院長選任の件	大阪クリスチャンセンター	(委)1	
	至13:45	2 人事の件	多目的ルーム		
		3 大学・短期大学学則改正の件			
9	17.3.28			12	2
	自20:00	1 学事報告	ホテルグランヴィア大阪	(委)2	
	至21:20	2 代表権の理事長付与に関する件	「鶴寿の間」		
		3 人事の件			
		4 2005年度事業計画の件			
		5 2005年度予算の件			
		6 大学設置特定資産取崩しの件			

平成16年度 学院運営会議開催状況

第1回 平成16年 4月13日(火)

- (1) 運営会議メンバーについて
- (2) 外部向け開学式日程について
- (3) 同窓会よりの寄附申入れについて
- (4) 教育ローン契約について

第2回 平成16年 5月25日(火)

- (1) 平成15年度決算について
- (2) 学事報告について
- (3) 中高教員採用について
- (4) 外部向け開学式及び墓前礼拝の日程について
- (5) 旧クリスチャンセンター利用計画及び同建物呼称について
- (6) 法人→図書館の利用計画について
- (7) 南校舎～新クリスチャンセンター渡り廊下について
- (8) 教育ローン契約書について
- (9) 学院内安全対策について
- (10) 九州同窓会出席者調整について

第3回 平成16年 6月 1日(火) 14:00～

- (1) 学院運営に関する協議テーブルについて
- (2) 教育ローン契約書について
- (3) 建設・設備維持保全推進協会の表彰(BELCA賞)について
- (4) 同窓会懇談会日程について
- (5) OCC会館竣工式出席者の確認について

第4回 平成16年 6月29日(火) 14:00～

- (1) クリスチャンセンター使用に関する覚書について

第5回 平成16年 7月 6日(火) 15:00～

- (1) 平成16年度教職員組合年間要求について
- (2) 大学事務職員の勤務形態に関する要求の回答について
- (3) 京滋地区同窓会の出席者について

第6回 平成16年 7月20日(火) 14:00～

- (1) 中高教員採用について
- (2) 食堂委託業者について
- (3) 学院食堂改装について

第7回 平成16年 9月 2日(木) 14:00～

- (1) 平成17年度授業料について

- (2) 組合年間要求の回答について
- 第8回 平成16年10月12日(月) 15:30～
- (1) 開学記念式典及び感謝祝賀会について
 - (2) 組合申入書の回答について
- 第9回 平成16年11月 9日(火) 14:00～
- (1) 学院内建物の耐震について
 - (2) 組合回答について
- 第10回 平成16年12月 7日(火) 14:00～
- (1) 団交事前準備について
- 第11回 平成16年12月22日(火) 14:00～
- (1) 私立学校法改正について
 - (2) 個人情報保護法について
 - (3) 懲戒規程について
 - (4) 図書館書籍棚卸について
- 第12回 平成17年 1月11日(火) 14:00～
- (1) 私立学校改正に伴う運営等の検討について
 - (2) 期末手当について
 - (3) 掲示ボードについて
 - (4) 職員オリエンテーションについて
- 第13回 平成17年 2月 7日(月) 15:00～
- (1) 私立学校改正に伴う運営等の検討について
 - (2) 常勤教員・非常勤教員の雇い止めについて
 - (3) 職員オリエンテーション日程について
 - (4) 産業医変更について
- 第14回 平成17年 3月 1日(火) 経営改革委員会後～
- (1) 事務職員昇格審査について
 - (2) 安全管理について
 - (3) 名札改善について
- 第15回 平成17年 3月26日(土) 17:00～
- (1) 事務職員昇格審査について
 - (2) 学事報告について
 - (3) 代表権の理事付与について
 - (4) 平成17年度事業計画について
 - (5) 平成17年度予算(案)について
 - (6) 大学設置特定資産取り崩しについて
 - (7) 次回会議日程について
 - (8) 支部同窓会出席者について

平成14年度 評議員会開催状況

学校法人 大阪女学院

評議員会				
回	開催日時	議題	会場	出席状況
1	14.5.29			
	自18:00	1 学事報告の件	レストランパレス	20
	至19:25	2 寄附行為改正の件		
		3 基本財産処分の件		
		4 2001年度予算補正の件		
2	14.5.29			
	自20:30	1 2001年度決算の件	レストランパレス	20
	至20:50			
3	14.7.22			
	自18:00	1 借入金の件	レストランパレス	20
	至18:55	2 クリスマンセンター地上権買収等に関する登記 手続き完了について(報告)		
4	14.11.29			
	自20:30	1 四年制大学設置審議会答申の件	レストランパレス	20
	至21:00			
5	15.2.17			
	自18:00	1 退職給与引当特定資産取崩しの件	ホテルグランヴィア大阪 「鶴寿の間」	20
	至18:20			
6	15.3.17			
	自18:00	1 四年制大学設置申請に係る寄附行為改正の件	レストランパレス	19
	至18:30			
7	15.3.31			
			ホテルグランヴィア大阪 「鶴寿の間」	

2004(平成 16)年度
大学経営委員会および大学運営専門委員会

■大学経営委員会

主な審議業務	各大学運営専門委員会が分担する業務を統括し、大学運営に関わる事項を審議する。
構成メンバー	関根秀和(学長)、川岸 清(学長代行・アカデミックコーディネータ・教授)、智原哲郎(学長代行・アカデミックコーディネータ・教授)、浅田晋太郎(事務部長・学長室長)、田中義信(A L O)、加藤映子(教授)、奥本京子(助教授)、落谷正教(大学事務部教育企画・推進部長)、井上文彦(教授)、大西蝶子(大学事務部学生サポート企画・推進部長)、垣本 充(教授)、米田信子(助教授)、伊藤俊彦(大学事務部継続教育企画・推進部長)、酒本孝子(大学事務部継続教育企画・推進部専門職係長)、小松泰信(助教授)、田中一江(大学事務部学長室アドミッションセンターマネージャー)、安里 仁(大学事務部学長室管理運営部長)、橋本誠一(大学事務部学長室改革推進課長)
開催状況	2004年6月30日、7月6日、12月21日、2005年1月11日、2月1日、2月26日、3月10日、3月15日

■大学運営専門委員会

<教育企画・推進委員会>

主な審議業務	教育課程(カリキュラム編成、学年暦、科目等履修生、社会人入学、編入学、教職課程、単位互換)、キリスト教教育、人権教育、海外プログラム(セメスター留学、海外地域研究、提携大学留学指導)、フィールドワーク、インターンシップ、導入教育、初年次(入学前・入学後オリエンテーション)
構成メンバー	委員長：川岸 清、副委員長：落谷正教 智原哲郎、梶原直美(助教授)、加藤映子、Steve Cornwell(教授)、山下辰夫(教授)、米田信子、浅田晋太郎、田中義信
開催状況	2004年4月21日、6月11日、6月25日、10月26日、2005年2月12日、2月15日

<英語教育企画・推進委員会>

主な審議業務	英語教育全般にわたる業務、英語リエゾン委員会、担当者ワークショップ、英語学習サポート(スタディセンター、チューター制度、スキルトレーニングプログラム)、英語教育効果測定(診断テスト、PT、TOEIC、TOEFL)
構成メンバー	委員長：加藤映子、副委員長：奥本京子 稲田依久(助教授)、智原哲郎、Steve Cornwell、David Bramley(助教授)、

	William Cline (助教授)、川岸 清、落谷正教
開催状況	2004年5月18日、10月27日、11月19日、2005年1月25日、3月1日

<学生サポート企画・推進委員会>

主な審議業務	学生の異動(休学・復学・退学)、就職指導、編入学指導、生活支援(スカラシップ、自宅外生、緊急支援)、学生相談(カウンセリング)
構成メンバー	委員長:井上文彦、副委員長:大西蝶子 肴倉 宏(専任講師)、山下辰夫、仲 功(大学事務部学生サポート企画・推進部顧問)、徐 明寛(大学事務部学生サポート企画・推進部課長補佐)、田中礼子(大学事務部学生サポート企画・推進部課長補佐)、稲田依久、梶原直美(助教授)
開催状況	2004年4月20日、7月21日、9月24日、9月29日、10月13日、10月27日、11月25日、12月1日、2005年1月12日、3月23日

<研究活動企画・推進委員会>

主な審議業務	研究活動(全体、領域別、課題別)の企画、推進、成果の公表
構成メンバー	委員長:垣本 充、副委員長:米田信子 馬淵 仁(教授)、中井弘一(教授)、安里 仁、田中義信
開催状況	2004年5月21日、6月11日、7月23日、9月24日、10月15日、10月29日、12月17日、2005年1月14日

<継続教育企画・推進委員会>

主な審議業務	新規事業企画・立案、推進、地域社会との連携・交流・貢献
構成メンバー	委員長:伊藤俊彦、副委員長:酒本孝子 智原哲郎、原田純子(助教授)、佐々木差英子(大学事務部教育企画・推進部係長)、市山時彦(大学事務部継続教育・企画推進部顧問)
開催状況	2004年5月11日、6月9日、6月29日、9月22日、10月20日、11月9日、12月21日、2005年1月25日

<LMS企画・推進委員会>

主な審議業務	LMS(Learning Management System)システムの構築・運用
構成メンバー	委員長:小松泰信、副委員長:浅田晋太郎 橋本誠一、加藤映子、徐 明寛、長江安佐子(大学事務部学長室LMS企画・推進係長)、David Bramley、関根 聡(専任講師)、Steven McCarty(教授)
開催状況	2004年4月20日、10月15日、10月20日

■学生募集関係

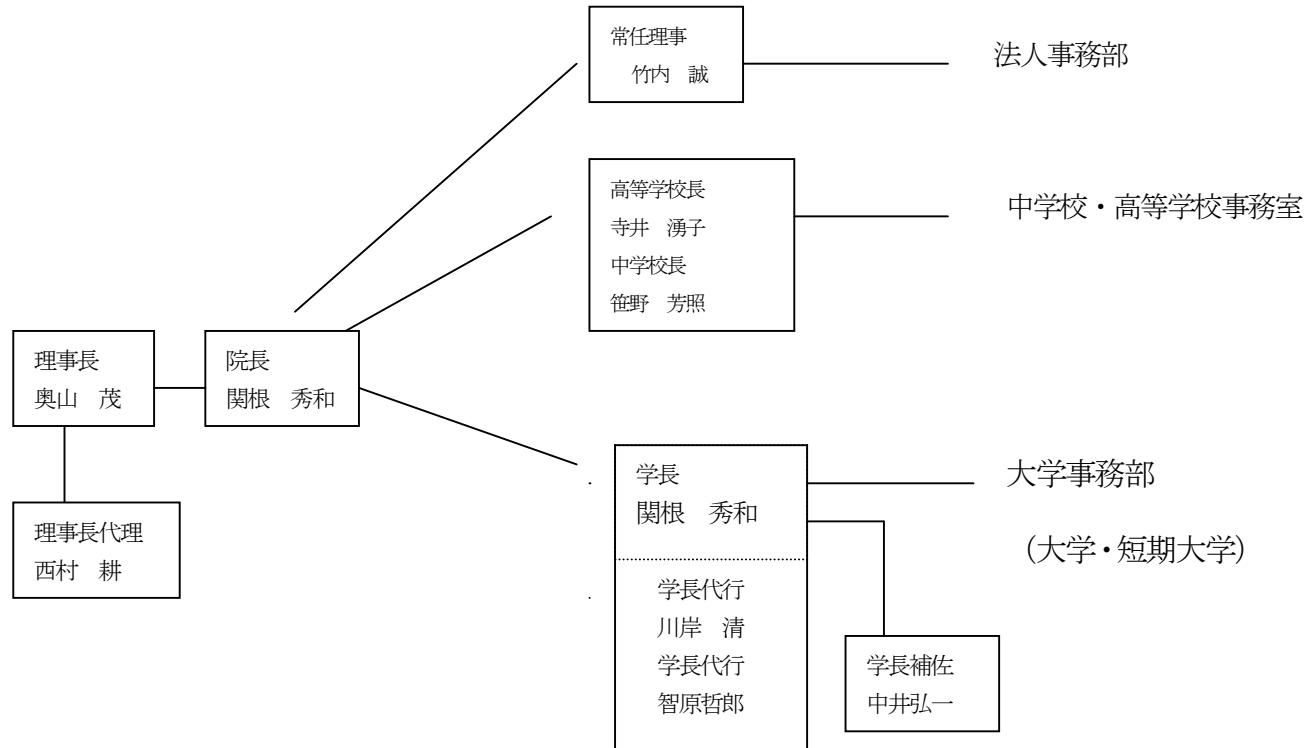
<募集広報会議>

主な審議業務	学生募集要項の策定
構成メンバー	議長：関根秀和、副議長：田中一江 川岸 清、智原哲郎、加藤映子、馬淵 仁、中井弘一、稲田依久、奥本京子、田中義信、浅田晋太郎、落谷正教、橋本誠一、原村佳美(大学事務部学長室アドミッションセンター主任)
開催状況	2004年6月7日、6月8日、6月9日、6月14日、11月10日、11月19日、11月26日、12月7日、12月20日、12月22日、2005年1月18日

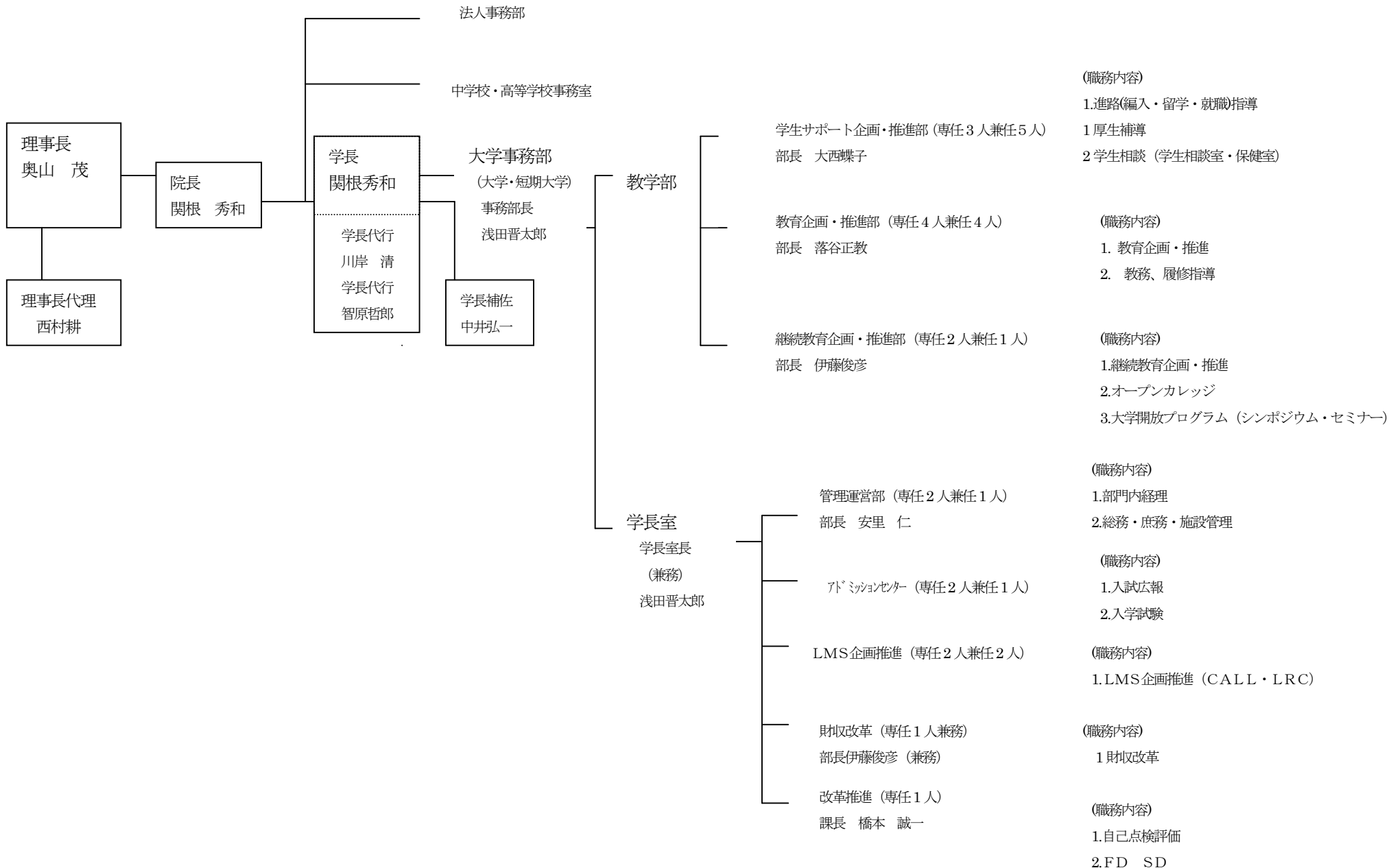
<判定会議>

主な審議業務	入学許可者の決定
構成メンバー	議長：関根秀和、副議長：田中一江 川岸 清、智原哲郎、井上文彦、垣本 充、加藤映子、馬淵 仁、中井弘一、稲田依久、米田信子、奥本京子、小松泰信、田中義信、浅田晋太郎、落谷正教、安里 仁、大西蝶子、伊藤俊彦、橋本誠一、酒本孝子、原村佳美
開催状況	2004年11月15日、2005年1月29日、2月9日、3月4日、3月9日、3月18日、3月26日

学校法人大阪女学院の事務組織(全体図)



学校法人大阪女学院の事務組織(大学事務部)



監事の監査状況報告

<2002（平成14）年度>

月 日	内 容
5月24日（金）	平成13年度決算について、決算資料に基づき財務担当者から財務状況の説明を受け、下記の監査を行った。 (1)資金収支及び消費収支の状況 (2)現預金・有価証券の残高状況 (3)借入金の返済状況 (4)施設設備の改修の状況 (5)人件費の支出状況等
5月29日（水） 第1回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査、平成13年度決算について監査報告を行った。
7月22日（月） 第2回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
8月27日（火） 第3回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
9月30日（月） 第4回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
11月29日（金） 第5回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
12月27日（金） 第6回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
1月27日（月） 第7回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
2月17日（月） 第8回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
3月17日（月） 第9回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
3月31日（月） 第10回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。

<2003（平成15）年度>

5月21日（水）	平成14年度決算について決算資料に基づき、財務担当者から財務状況の説明を受け、下記の監査を行った。 (1)資金収支及び消費収支の状況 (2)現預金・有価証券の残高状況 (3)借入金の返済状況 (4)施設設備の改修の状況 (5)人件費の支出状況等 また、公認会計士による監査報告会に同席し、公認会計士と意見交換を行った。
5月29日（木） 第1回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査、平成14年度決算について監査報告を行った。
7月23日（水） 第2回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
9月1日（月） 第3回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
10月6日（月） 第4回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
12月24日（水） 第5回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
2月27日（金） 第6回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
3月9日（火） 第7回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
3月31日（水） 第8回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。

<2004（平成16）年度>

5月24日（月）	平成15年度決算について決算資料に基づき、財務担当者から財務状況の説明を受け、下記の監査を行った。 (1)資金収支及び消費収支の状況 (2)現預金・有価証券の残高状況 (3)借入金の返済状況 (4)施設設備の改修の状況 (5)人件費の支出状況等 また、公認会計士による監査報告会に同席し、公認会計士と意見交換を行った。
5月29日（土） 第1回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査、平成14年度決算について監査報告を行った。
5月29日（土） 第2回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
7月20日（火） 第3回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
9月7日（火） 第4回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
11月26日（金） 第5回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
12月27日（月） 第6回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
2月14日（月） 第7回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
3月14日（月） 第8回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。
3月28日（月） 第9回理事会	理事会に出席し、理事の業務執行状況を監査。

別紙様式1

過去3ヶ年の収支計算書の概要

【資金収支計算書／資金収入の部】

(単位:千円)

	14年度		15年度		16年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	1,826,766	912,169	1,845,990	876,527	1,900,250	689,493
手数料収入	48,658	19,252	58,903	16,490	54,458	13,800
寄附金収入	32,972	3,366	33,559	4,047	48,402	2,416
補助金収入	654,294	169,098	656,408	174,733	610,072	114,168
資産運用収入	12,170	79	16,435	19	12,784	18
資産売却収入	528,500	0	632,704	0	980,317	0
事業収入	15,505	14,516	18,789	17,665	24,239	23,074
雑収入	88,858	36,689	29,271	4,228	69,171	4,248
借入金等収入	100,000	0	0	0	0	0
前受金収入	340,720	—	439,575	—	409,400	—
その他の収入	1,013,842	—	194,908	—	578,018	—
資金収入調整勘定	▲ 454,847	—	▲ 386,301	—	▲ 518,430	—
前年度繰越支払資金	534,264	—	687,480	—	318,467	—
収入の部合計	4,741,702	1,155,169	4,227,721	1,093,709	4,487,148	847,217

【資金収支計算書／資金支出の部】

人件費支出	1,760,777	667,630	1,697,873	621,087	1,921,254	465,376
教育研究経費支出	344,088	182,683	340,796	168,459	461,699	213,436
管理経費支出	226,059	138,486	315,072	97,683	315,735	145,838
借入金等利息支出	50,150	18,049	45,784	15,113	41,279	12,482
借入金等返済支出	111,120	62,810	137,760	54,656	145,350	55,573
施設関係支出	445,294	146,812	119,852	430	181,007	16,434
設備関係支出	46,079	18,673	90,698	29,418	130,247	60,007
資産運用支出	1,050,797	—	1,065,657	—	847,160	—
その他の支出	165,824	—	186,498	—	107,476	—
資金支出調整勘定	▲ 145,966	—	▲ 90,736	—	▲ 207,481	—
次年度繰越支払資金	687,480	—	318,467	—	543,422	—
支出の部合計	4,741,702	1,235,143	4,227,721	986,846	4,487,148	969,146

【消費収支計算書／消費収入の部】

	14年度		15年度		16年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	1,826,766	912,169	1,845,990	876,527	1,900,251	689,493
手数料	48,658	19,252	58,903	16,490	54,458	13,800
寄附金	35,348	3,534	34,743	4,201	50,506	3,718
補助金	654,294	169,098	656,408	174,733	610,072	114,168
資産運用収入	12,170	79	16,435	19	13,590	18
資産売却差額	210	0	122	0	164	0
事業収入	15,505	14,516	18,789	17,665	24,239	23,074
雑収入	88,858	36,690	29,271	4,228	69,171	4,248
帰属収入合計	2,681,809	1,155,338	2,660,661	1,093,863	2,722,451	848,519
基本金組入額合計	▲ 499,274	▲ 193,449	▲ 310,173	▲ 111,695	▲ 442,970	▲ 132,666
消費収入の部合計	2,182,535	961,889	2,350,488	982,168	2,279,481	715,853

【消費収支計算書／消費支出の部】

人件費	1,739,500	668,716	1,700,324	620,768	1,926,520	464,771
教育研究経費	604,101	280,095	597,903	273,876	759,283	315,317
(うち減価償却費)	(260,013)	(97,412)	(257,107)	(105,417)	(297,584)	(101,881)
管理経費	241,406	143,954	330,821	102,993	338,953	149,337
(うち減価償却費)	(15,347)	(5,468)	(15,749)	(5,310)	(23,218)	(3,498)
借入金等利息	50,150	18,049	45,784	15,113	41,279	12,482
資産処分差額	35,070	5,828	13,189	3,711	5,836	2,281
徴収不能額	750	750	4,858	4,730	1,933	303
消費支出の部合計	2,670,977	1,117,392	2,692,879	1,021,191	3,073,804	944,491
当年度消費支出超過額	488,442	—	342,391	—	794,323	—
翌年度繰越消費支出超過額	2,163,051	—	2,505,442	—	3,299,765	—

別紙様式2

平成16年度末の貸借対照表概要

平成17年3月31日／単位:千円

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	6,659,796	7,088,882	▲ 429,086
有形固定資産	6,032,058	6,056,138	▲ 24,080
その他の固定資産	627,738	1,032,744	▲ 405,006
流動資産	1,168,502	1,148,054	20,448
資産の部合計	7,828,298	8,236,936	▲ 408,638
負債の部			
固定負債	1,569,439	1,658,403	▲ 88,964
流動負債	901,885	870,206	31,679
負債の部合計	2,471,324	2,528,609	▲ 57,285
基本金の部			
基本金合計	8,656,739	8,213,769	442,970
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出 超過額	3,299,765	2,505,442	794,323